

平成24年度

**教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検・評価報告書**

平成25年8月

岡山県津山市教育委員会

目次

	ページ
I 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	1
1 点検・評価の導入の目的	1
2 対象事業と点検・評価の方法	1
3 学識経験者による知見の活用	2
－地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	2
II 点検・評価 達成度一覧	3
III 点検・評価シート	7
1 教育委員会の活動	8
2 教育委員会が管理・執行する事務	19
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	25
－1－ 個の確立とつなぐ力を育む【学校教育】	26
－2－ 身近な人々のつなぐ力を育む【家庭・地域教育】	47
－3－ 過去から現在、未来へつなぐ力を育む 【生涯学習・スポーツ・文化】	58
4 教育委員会の権限に属する事務のうち市長部局の職員に 補助執行させる事務	81
－1－ 個の確立とつなぐ力を育む【幼児教育】	82
IV 学識経験者の総評	85
片岡 由美子（元小学校校長）	86
國藤 義 隆（自営業役員）	87
V 今後の教育委員会の対応の方向性	89
VI 資料	93
(1) 平成24年度津山市教育行政重点施策の体系	94
(2) 平成24年度教育予算の内訳	95
(3) 平成24年度教育委員会の組織機構と事務分掌	97

I 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価について

1. 点検及び評価の導入の目的

教育委員会は、首長から独立した合議制の執行機関です。創造的で人間性豊かな人材を育成するため、生涯学習の推進をはじめ、教育、文化、スポーツの振興など幅広い分野にわたる教育行政を一体的に推進していく上で、教育委員会制度は重要な役割を担っています。そして、教育委員会が協議決定した教育方針と施策について、教育長が統括する事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地教行法)の一部改正により、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆さんへの説明責任を果たすものです。また、同時に平成24年3月に策定した「津山市教育振興基本計画」(計画実施年度 平成24年度~28年度)の、定期的な点検と進行管理を毎年度行います。

2. 対象事業と点検・評価の方法

(1) 対象事業

津山市教育委員会が策定した「平成24年度教育行政重点施策」への取組並びに達成状況について、下記の項目別に点検・評価を行いました。

- 1 教育委員会の活動
- 2 教育委員会が管理・執行する事務
- 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務
- 4 教育委員会の権限に属する事務のうち市長部局の職員に補助執行させる事務

(2) 評価方法

上記の項目別に「Ⅲ点検・評価シート」を作成し、達成度(自己評価)により評価しました。

◎達成度(A~D)

- A・・・達成している (95%以上)
- B・・・ほぼ達成している (80%以上)
- C・・・概ね達成している (60%以上)
- D・・・達成していない (60%未満)

◎各項目の記載内容

[Ⅲ-1 教育委員会の活動]

評価理由、今後の対応の方向性、自己評価、活動状況。

[Ⅲ-2 教育委員会が管理・執行する事務]

評価理由、今後の対応の方向性。具体的な施策は(1)~(13)別に実施結果、自己評価を記載。

[Ⅲ-3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務、Ⅲ-4 教育委員会の権限に属する事務のうち市長部局の職員に補助執行させる事務]

各項目別に【項目の総合評価】、【主な取組と実施結果の成果】、【平成24年度主要事業の実施状況】、【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】を記載。

【項目の総合評価】は「施策の実績概要と評価理由」、「今後の課題と方向性」、「自己評価」により、【主な取組と実施結果の成果】は、「実施結果と成果」、「今後の課題と方向性」、「事項評価」を記載。また、【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】は、教育振興基本計画により設定された各項目における５年間の重点取組の実績及び達成率、事業の進捗状況及び今後の課題と方向性を記載。

(3) 点検・評価の期日

平成25年3月31日

(4) 報告・公表

平成25年9月津山市議会へ報告し、津山市教育委員会ホームページに掲載するとともに事務局での閲覧を行います。

3. 学識経験者による知見の活用

点検・評価にあたっては、地教行法第27条2項の規定により教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされているため、外部評価者2名の総評を付し、点検・評価の客観性を確保することとしました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

(事務の委任等)

第26条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。

一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。

二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。

三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。

四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。

五 次条の規定による点検及び評価に関すること。

六 第二十九条に規定する意見の申出に関すること。

3 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員(以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。)に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 点検・評価 達成度一覧

点 検 評 価 項 目	達 成 度				頁
	～59% D	60% C	80% B	95%～ A	
1. 教育委員会の活動					7
2. 教育委員会が管理・執行する事務					20
(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること					21
(2) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること					21
(3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置、廃止に関すること					22
(4) 教育委員会事務局及び教育機関の職員の任免その他の人事に関すること					22
(5) 県費負担に係る校長の任免その他の人事の内申に関すること					22
(6) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること					22
(7) 教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ること					22
(8) 法令等で定められた諮問機関の委員を委嘱すること					22
(9) 学齢児童・生徒の就学すべき学校区域を設定し、又はこれを変更すること					23
(10) 教科用図書の採択に関する一般方針を定めること	※	※	※	※	23
(11) 市重要文化財を指定及び解除すること					23
(12) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関すること	※	※	※	※	23
(13) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等に関すること					23
3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務					25
-1- 個の確立とつなぐ力を育む【学校教育】					26
(1) 義務教育の充実					26
① 確かな学力の向上					26
ア 計画的な施策の推進					26
イ 今後求められる「確かな学力」の向上					27
ウ 学校の教育力の向上					27
エ 家庭の教育力の向上					28
オ 地域の教育力の活用					28
② 豊かな心の育成					30
ア 豊かな心の育成					30
イ 道徳教育の充実					30
ウ 情報モラル教育の充実					31
エ 問題行動の解消に向けた取組の充実					31
③ 健やかな体の育成					33
ア 学校体育の充実					33
イ 基本的な生活習慣・食習慣の改善					33
ウ 教育活動全体を通じた食育の推進					34
エ 食文化の継承					34

点 検 評 価 項 目				達 成 度				頁
				～59%	60%	80%	95%～	
				D	C	B	A	
		④特別支援教育の充実						36
			ア 療育と学齢期をつなぐ就学相談体制の充実					36
			イ 小中学校における特別支援教育の充実					36
			ウ 障害がある児童生徒の自立に向けた支援					37
		⑤開かれた学校づくり						38
			ア 学校評価の取組と学校評議員制度の充実					38
			イ 学校支援ボランティア活動の推進					38
		(2) 教育環境の充実						40
		①安全・安心の学校づくり						40
			ア 学校施設の耐震化と老朽化施設の改修					40
			イ 学校施設・設備の整備による安全・安心の確保					40
			ウ 学校の環境衛生					41
		②安全・安心に配慮した学校給食の充実						42
			ア 魅力ある献立の作成					42
			イ 安全性の確保					42
			ウ 衛生管理の徹底					43
		③良好な教育環境の維持・向上						44
			ア 小中学校の適正規模・適正配置					44
			イ 民間活力の導入					44
			ウ 学校施設の開放と使用料等の適正化					45
			エ 教育委員会の活性化					45
		- 2 - 身近な人々のつなぐ力を育む【家庭・地域教育】						47
		(1) 青少年の健全育成の推進						47
			①青少年健全育成の総合的な推進					47
			ア 健全育成のための連携強化					47
			イ 青少年健全育成事業の推進					48
			②相談、支援体制の整備と社会参加の促進					49
			ア 相談体制の充実					49
			イ 支援体制の整備と社会参加の促進					49
			ウ 啓発活動					50
		(2) 家庭・地域の教育力の向上						51
			①学校・家庭・地域が連携した教育の推進					51
			ア 地域社会の教育力の向上					51
			イ 連携体制の強化					52
			ウ 読書活動の推進					52

点 検 評 価 項 目				達 成 度				頁
				～59%	60%	80%	95%～	
				D	C	B	A	
		②家庭教育への支援						54
		ア	情報の提供					54
			学びの推進					54
			相談体制の充実					55
		③地域資源を活用した学習の推進						56
		ア	地域資源の活用					56
			学習機会の充実					56
			関係機関との連携・協力					57
		- 3 - 過去から現在、未来へつなぐ力を育む【生涯学習・スポーツ・文化】						58
		(1) 生涯学習環境の整備						58
		①生涯学習の推進						58
		ア	生涯学習の推進					58
			協働による生涯学習推進体制の確立					58
		②学習情報・機会の提供						60
		ア	生涯学習情報の充実					60
			市民が参加しやすい生涯学習の環境づくり					60
			学習機会の提供と支援体制					61
		③拠点施政の整備						62
		ア	社会教育施設の整備と利活用促進					62
			施設運営への市民参画と民間活力の導入					63
			職員の資質向上					63
		④生涯学習成果の活用						64
		ア	学習成果を活かす意識啓発					64
			持続可能な地域づくり					64
		(2) スポーツ活動の支援と施設の活用						66
		①生涯スポーツの振興						66
		ア	生涯スポーツ社会の推進					66
			スポーツ指導者の育成と活用					66
			スポーツ活動の啓発とスポーツ関係団体の支援					67
		②スポーツ環境の整備						68
		ア	施設の計画的な整備と利用促進					68
			施設運営への民間活力の導入と市民参画					68
		③競技力の向上						70
		ア	競技スポーツの専門的指導者の育成・支援					70
			全国大会等出場選手への支援					70
			関係団体との連携強化					71

点 検 評 価 項 目		達 成 度				頁
		～59%	60%	80%	95%～	
		D	C	B	A	
	(3) 芸術文化の振興、文化財の保存と活用					72
	①市民文化の創造と継承					72
	ア 文化事業の充実					72
	イ 文化活動への支援					72
	ウ 推進体制の充実					73
	②文化環境の整備					74
	ア 文化施設の利用促進と整備					74
	イ 文化情報の収集と提供・発信					74
	③文化財の保存と活用					76
	ア 文化財の保存と活用					76
	イ 推進体制の充実					76
	④郷土史学習の推進					78
	ア 学術研究の成果に基づいた学習機会の提供					78
	イ 郷土を大切に作る心の醸成					79
	ウ 地域にの学習資源の活用					79
	エ 津山市史の編纂					79
4. 教育委員会の権限に属する事務のうち市長部局の職員に補助執行させる事務						81
	-1- 個の確立とつなぐ力を育む【幼児教育】					82
	(1) 幼児教育の充実					82
	①教育内容の充実と環境の整備					82
	ア 幼児教育の質の向上					82
	イ 就学前教育と小学校教育の連携					82
	ウ 子育て支援の充実					83
	エ 特別支援教育の充実					83
	オ 環境の整備					83

達成度 (A～D)

- A・・・達成している (95%以上)
 B・・・ほぼ達成している (80%以上)
 C・・・概ね達成している (60%以上)
 D・・・達成していない (60%未満)

なお、評価できない項目については、
 ※マークを入れています。

Ⅲ 点検・評価シート

1. 教育委員会の活動

自己評価	A
------	---

1. 教育委員会の活動	担当	教育委員会
評価理由	平成 18 年、約 60 年ぶりに教育基本法が改正され、それにともない平成 19 年には教育関連 3 法案が改正・成立した。地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地教行法）の改正において教育委員会の責任と職務の明確化がなされた。 「基本理念」として、「地方公共団体における教育行政は、教育基本法の趣旨にのっとり、教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう、国との適切な役割分担及び相互の協力の下、公正かつ適正に行わなければならない。」と示された。 「服務等」について、「委員は、その職務の遂行にあたっては、自らが当該地方公共団体の教育行政の運営について負う重要な責任を自覚するとともに、第 1 条の二に規定する基本理念に則して当該地方公共団体の教育行政の運営が行われるよう意を用いなければならない。」と定められた。 教育委員会制度について、地教行法等からその概要をまとめると次のとおりである。 教育委員会は都道府県及び市町村等におかれる合議制の執行機関で、創造的で人間性豊かな人材を育成するため、生涯学習の推進をはじめ、教育、文化、スポーツの振興など幅広い分野にわたる教育行政を一体的に推進していく上で、教育委員会制度は重要な役割を担っている。 5 人の教育委員（うち 4 名は非常勤、1 名は常勤の教育委員（教育長））をもって組織され、会議を通じて意志決定をする。教育委員長（委員の互選により 1 名、任期 1 年、再任可）は、教育委員会の会議を招集し、かつ主宰し、教育委員会を代表するものとされ、会議の議事は出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。委員長名で教育委員会の権限に属する法律行為をなすうが、委員長単独の意志でなく、あくまで合議体としての教育委員会の決定により行われる。 教育委員会は、多岐にわたる教育事務のすべてを処理するものではなく、会議において教育事務の管理執行に関し方針、重要事項を決定し、それを具体的に執行するのは教育長の役割である。このような役割分担を前提として、教育委員会規則に掲げる 10 項目を除き、その権限に属する教育事務を教育長に委任することとしている。会議は、原則公開することになっているが、人事に関する事項、その他の事項について、委員長または委員の発議により、出席委員の 3 分の 2 以上の多数で議決したときは、会議を公開しないことができることになっている。通常、月に 1 回の定例会を、必要に応じて臨時会等を開催する。地域の様々な行政課題に迅速かつ的確に対応できるようにするために、定例会だけでなく、臨時会や委員協議会などの方式を積極的に活用し、開催日時を工夫することが重要である。 上記のことを踏まえ、下記の（1）から（6）の評価項目を設定し、評価することとした。 （1）教育委員会の会議の運営改善 ①教育委員会会議の開催回数 ②教育委員会会議の運営上の工夫 （2）教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信 ①教育委員会会議の傍聴者の状況 ②会議録の公開、広報・公聴活動の状況 （3）教育委員会と事務局との連携 ①教育委員会と事務局との連携 （4）教育委員会と市長との連携 ①教育委員会と市長との教育懇談会の実施 （5）教育委員の自己研鑽 ①研修会への参加状況 （6）学校及び教育施設に対する支援・条件整備 ①学校訪問 ②所管施設の訪問	

今後の対応 の方向性	・教育委員は、職務の遂行にあたって、教育行政の運営について責任を自覚し、教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう公正かつ適正に行うよう心がけることが大切である。また、教育委員会として創造的で人間性豊かな人材を育成するため、生涯学習の推進をはじめ、文化、スポーツの振興など幅広い分野にわたる教育行政を一体的に推進していかなければならない。 ・本年度は、平成 23 年度に策定した「津山市教育振興基本計画“つなぐ力を育む”」の初年度（平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間計画）となり、学校教育や社会教育、生涯学習、スポーツ、文化などの 8 領域、25 項目にわたって、重点取組を掲げている。計画の実現に向けて、定期的な点検と進行管理を毎年度行うこととなっており、達成率の低い項目への取組を、中長期的視点に立ち、評価・検証をしていく。 ・幼稚園の[新教育要領]は平成 21 年 4 月から完全実施。[新学習指導要領]は小学校は平成 23 年 4 月から、中学校は平成 24 年 4 月から完全実施された。子どもたちの未来の為に、学校・家庭・地域が力を合わせて、社会全体で「生きる力」を育む教育環境の構築・整備の充実が急がれる。 ・教育委員会の活動を地域住民に広域的確に伝え、住民の意向を把握し、それを施策に反映させる体制を整備することが重要であり、広報活動や教育行政に関する相談活動を充実させることが必要である。
自己評価	A

◇平成24年度教育委員会の活動状況

(1) 教育委員

氏 名	役 職	委員就任年月日	現 任 期
いはらだ ひろこ 居原田 洋子	委員長職務代理者 (～平成24年9月30日) 委員長 (平成24年10月1日～)	平成22年12月25日	平成22年12月25日 ～平成26年12月24日
わたなべ しんすけ 渡邊 信介	委 員 (平成24年9月30日～) 委員長職務代理者 (～平成24年10月1日)	平成22年12月25日	平成22年12月25日 ～平成26年12月24日
もり なおみ 森 尚美	委員 (平成24年10月1日～)	平成24年10月1日	平成24年10月1日 ～平成28年9月30日
たむら よしのり 田村 芳倫	教育長 (平成22年4月1日～)	平成22年4月1日	平成24年4月1日 ～平成28年3月31日
きしもと ごろう 岸本 伍郎	委員長 (～平成24年9月30日)	平成16年10月1日	平成20年10月1日 ～平成24年9月30日
よしい つねひろ 吉井 常浩	委員 (～平成24年12月25日)	平成20年12月26日	平成20年12月26日 ～平成24年12月25日

(2) 教育委員会会議の開催状況

(定例会…「定」、臨時会…「臨」)

月 日	定・臨	教育長等の 報告	議 案	協 議	報 告	その他
4月24日	定	0	5	0	9	5
5月22日	定	0	5	3	6	1
5月22日	臨	1	1	0	0	0
6月26日	定	0	8	2	7	5
7月10日	臨	0	1	0	1	0
7月24日	定	0	4	0	4	3
8月28日	定	0	2	3	5	4
9月25日	定	0	5	1	2	5
10月 1日	臨	0	1	0	0	0
10月23日	定	0	2	4	0	8
11月27日	定	0	3	4	5	7
12月25日	定	0	6	1	1	7
12月26日	臨	0	1	0	0	0
1月22日	定	0	1	3	4	5
2月26日	定	0	3	6	8	6
3月14日	臨	0	2	0	0	0
3月26日	定	0	9	0	6	6
3月26日	臨	0	1	0	0	0
合 計		1	60	27	58	62

※定例会12回、臨時会6回開催

(3) 教育長代決処理案件

※(非)は非公開とした案件

月 日	議 決 案 件
5月22日	① 津山市立学校及び教育機関の職員の行政措置について (非)

(4) 教育委員会議決案件

※(非)は非公開とした案件

月 日	議 決 案 件
4月24日	① 津山市教育委員会処務規則の一部改正について ② 校務を分担する主任等の命免について (非) ③ 津山市社会教育委員の委嘱について (非) ④ 津山市青少年育成指導委員の委嘱について (非) ⑤ 津山市指定文化財の解除について
5月22日	① 平成24年度津山市立小・中学校学校評議員の委嘱について (非) ② 津山市社会教育委員の委嘱について (非) ③ 津山市公民館運営審議会委員の委嘱について (非) ④ 津山市青少年育成指導委員の委嘱について (非) ⑤ 津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員の委嘱について (非)

5月22日	① 津山市立中学校校長・教諭の行政措置について（非）
6月26日	① 津山市立学校に勤務する県費負担教職員の「教職員の育成・評価システム」にかかる苦情相談及び苦情処理に関する要綱について ② 育児・介護のための時差出勤に関する要綱の一部改正について ③ 津山市青少年育成指導委員の委嘱について（非） ④ 津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員の委嘱について（非） ⑤ 津山市立図書館協議会委員の任命について（非） ⑥ 津山市指定文化財の新指定について ⑦ 津山市指定文化財の指定解除について ⑧ 津山市指定文化財の指定事項の変更について
7月10日	① 臨時職員に関する人事案件について（非）
7月24日	① 津山市心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について（非） ② （仮称）津山市東部学校給食センター設計者選定プロポーザル審査委員会設置要綱について ③ 青少年育成センター運営審議会委員の委嘱について（非） ④ 津山市スポーツ推進委員の委嘱について（非）
8月28日	① 平成23年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について ② 津山市スポーツ推進委員の委嘱について（非）
9月25日	① 津山市学校給食施設等整備検討委員会規則を廃止する規則について（非） ② 津山市指定文化財の新指定について ③ 津山市指定文化財の指定名称の変更について ④ 知新館管理運営要綱の一部を改正する要綱について ⑤ 津山市スポーツ推進委員の委嘱について（非）
10月1日	① 委員長の選任及び委員長職務代理者の指定について（非）
10月23日	① 津山市心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について（非） ② 津山市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則について
11月27日	① 津山市伝統的建造物群保存地区保存条例施行規則の制定について ② 津山市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則について ③ 津山郷土博物館協議会委員の任命について（非）
12月25日	① 津山市立学校施設使用条例施行規則の制定について ② 津山市立学校管理規則の一部を改正する規則について ③ 津山市教育委員会処務規則の一部を改正する規則について ④ 津山市立小中学校の校庭等の開放に関する規則を廃止する規則について ⑤ 平成25年度津山市立図書館の休館日について ⑥ 津山市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について（非）
12月26日	① 生涯学習部職員に関する人事案件について（非）
1月22日	① 津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員の委嘱及び解嘱について（非）
2月26日	① 久米ふれあい陶芸センター条例施行規則の一部を改正する規則について ② 伝統的建造物群保存地区保存条例施行規則の全部を改正する規則について ③ 伝統的建造物群保存地区保存計画の策定について
3月14日	① 平成24年度末津山市立学校教職員人事異動について（非） ② 平成25年4月1日付け津山市教育委員会事務局職員の人事異動について（非）
3月26日	① 津山市教育委員会職員職名規則の一部を改正する規則について ② 津山市教育委員会処務規則の一部を改正する規則について ③ 津山市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する規程について ④ 平成25年度教育行政重点施策の策定について ⑤ 学校力向上推進プランの策定について ⑥ 津山市史編さん委員会設置規則の制定について ⑦ 津山市文化財保護委員会委員の委嘱について（非）

	⑧ 津山市指定文化財の解除について ⑨ 津山市スポーツ推進委員の解職について（非）
3月26日	① 平成25年度津山市公立学校の事務長の命免について（非）

（５）教育委員会協議案件

※（非）は非公開とした案件

月 日	議 決 案 件
5月22日	① 平成24年度6月補正予算について（非） ② 津山市学校給食施設等整備計画について（非） ③ 河辺小学校校舎耐震改修工事請負契約等の締結について（非）
6月26日	① 平成23年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について（非） ② 阿波小学校の統合方針について（非）
8月28日	① 津山市立学校施設使用条例の制定について（非） ② 津山市執行機関の付属機関設置条例の一部を改正する条例について（非） ③ 平成24年度9月補正予算について（非）
9月25日	① 平成23年度問題行動調査の結果について－生徒指導の充実に向けて－（非）
10月23日	① 阿波小学校について（非） ② 勝北陶芸の里工房条例の一部を改正する条例について（非） ③ 久米ふれあい陶芸センター条例の一部を改正する条例について（非） ④ 津山市伝統的建造物群保存地区保存条例の制定について（非）
11月27日	① 平成24年度12月補正予算について（非） ② 平成25年度教育委員会当初予算要求事業について（非） ③ 平成24年度末津山市立小・中学校教職員人事異動方針について ④ 平成24年度津山市小・中学校学級編制基準について
12月25日	① 津山市立小学校及び中学校の設置に関する条例の一部を改正する条例について（非）
1月22日	① 平成25年度津山市教育基本目標、教育基本方針について ② 平成25年度国及び県学力・学習状況調査について ③ 津山市公民館条例の一部を改正する条例について（非）
2月26日	① 平成24年度3月補正予算について（非） ② 平成25年度当初予算について（非） ③ 勝北陶芸の里工房条例施行規則の一部を改正する規則について ④ 津山市執行機関の付属機関設置条例の一部を改正する条例について（非） ⑤ 津山市文化財デジタル公開事業基金条例の制定について（非） ⑥ 津山市の基金の処分の特例に関する条例の一部を改正する条例について（非）

（６）教育委員協議会の開催状況

月 日	協議題数	月 日	協議題数	月 日	協議題数
4月24日	2	9月25日	3	1月22日	5
5月22日	3	10月23日	5	2月16日	5
6月26日	2	11月27日	2		
7月24日	3	12月25日	1		

※10回開催

(7) 各懇談会

月 日	内 容
7月20日 23日 31日	市内小中学校PTA会長・教育長の懇談会
8月28日	市議会議員（総務文教委員）・教育委員の懇談会
10月31日	県教育委員・教育委員の懇談会
11月26日	市内小中学校校長・教頭・教育委員の懇談会

(8) 教育委員会会議以外の活動状況

①学校訪問

月 日	訪 問 校 及 び 訪 問 施 設	
	小・中 学 校	小・中学校以外の施設
5月30日	勝北中学校、弥生小学校	勝北文化センター、勝北公民館、 勝北図書館、津山洋学資料館、 箕作阮甫旧宅、城東むかし町家、 津山郷土博物館
6月6日	秀実小学校、中正小学校、誠道小学校、 津山東中学校	グラスハウス、弓道場
6月7日	広野小学校、成名小学校、加茂小学校、 阿波小学校	加茂町スポーツセンター
6月12日	北陵中学校、高野小学校、林田小学校、 一宮小学校	鶴山塾、一宮公民館（放課後子 ども教室）
7月5日	鶴山中学校、院庄小学校、西小学校（通 級指導教室含む）、南小学校	

※小学校14校、中学校4校、小・中学校以外の施設12施設

②研究会・発表会

月 日	学 校 名	事 業 名
6月14日	勝加茂小学校	岡山県教育委員会指定 小学校理科ステップアップ研 修会
6月15日 11月22日 2月22日	北陵中学校	津山市教育委員会指定 津山市小・中学校研究支援事 業「認め合い、支え合い、確かな学びをめざす生徒の 育成」
6月26日	勝北中学校	岡山県総合教育センター指定 岡山県総合教育センタ ーサテライト講座（音楽研修講座）
10月17日	向陽小学校・津山 西中学校	岡山県総合教育センター指定 岡山県総合教育センタ ーサテライト研修講座（算数・数学研修講座）

10月18日	勝加茂小学校	津山市教育委員会指定 津山市小・中学校研究支援事業、津山市校内研究公開推進事業「確かな学力をつける～互いに認め合いながら、学習の喜びを実感できる授業づくり～」
10月18日	誠道小学校	津山市教育委員会指定 津山市校内研究公開推進事業「「自分の思いや考えを表現できる子を目指して」～学び合いを通して～」
10月19日	東小学校	津山市教育委員会指定 津山市小・中学校研究支援事業「共に学ぶ喜びと達成感を味わうことのできる授業づくり」
10月23日	秀実小学校	津山市教育委員会指定 津山市校内研究公開推進事業「自分の思いを出し合い、交流し合うことを通して、確かな読みを身につけていく子どもの育成」
10月25日	新野小学校	津山市教育委員会指定 津山市校内研究公開推進事業「自ら学び、豊かに表現する子どもを育てる」
10月26日	加茂中学校・加茂小学校・阿波小学校	岡山県教育委員会指定 外国語教育推進事業「小中の円滑な接続を図り、実態に応じた授業の工夫～コミュニケーション体験を授業の中心に捉えて～」
10月30日	広戸小学校	岡山県総合教育センター指定 岡山県総合教育センターサテライト研修講座（理科研修講座）
10月30日	佐良山幼稚園	幼稚園教育研究会「心豊かに生活する幼児をめざして～五感を通して感性を育む遊びをする中で～」
10月31日	喬松小学校	津山市教育委員会指定 津山市校内研究公開推進事業「豊かな人間関係をきずき、主体的に問題を解決する子どもの育成をめざして～自分の考えをもち、友達の考えを吸い上げながら、伝え合う力を育てる授業の工夫～」
11月 1日	北小学校	福武財団指定 学力・人間力育成推進事業
11月 2日	広戸小学校	津山市教育委員会指定 津山市校内研究公開推進事業「学びの道すじを明らかにし、教科の基礎・基本を身につけさせる授業の創造～算数的活動の研究と実践～」
11月18日	津山東中学校	岡山県教育委員会指定 アトラクティブ・スクール事業「今 何が大切かを考えて行動しよう～生徒に対して全ての学校力で～」
11月20日	中正小学校	津山市教育委員会指定 津山市小・中学校研究支援事業、津山市校内研究公開推進事業「学び合う児童の育成（共同学習）」
11月21日	勝北中学校	津山市教育委員会指定 津山市小・中学校研究支援事業、津山市校内研究公開推進事業「学力の向上をめざした学習指導法の工夫」
11月22日	久米中学校	津山市教育委員会指定 津山市小・中学校研究支援事業、津山市校内研究公開推進事業「生徒一人ひとりの学びを保障する共同学習による授業づくり」
11月28日	鶴山中学校	岡山県教育委員会指定 道徳教育実践研究事業「生き生きと活力があり、夢の実現に向け、発揮できる生徒の育成～社会に通じる規範意識の確立、基本的生活習慣の徹底を図る～」

③記念式・行事等

月 日	行 事 名
4月15日	第20回津山加茂郷フルマラソン全国大会
7月16日	津山市こどもまつり
8月28日	津山市教育相談センター鶴山塾教育講演会
10月7日	第41回つやま市民スポーツ祭
10月19日	第18回津山市立幼稚園合同保育 ワイワイまつり
11月1日	津山市教育委員会発足 60 周年記念式典
1月13日	第63回津山市成人を祝う会
1月20日	津山市PTA連合会・津山市家庭教育推進協議会共催教育講演会 (鍵山秀三郎氏)
2月23日	津山生涯学習まつり「津山市中央公民館文化祭」
3月15日	北小学校落成式

④卒業式

月 日	内 容
3月15日	市内8中学校
3月22日	市内28小学校
3月18日	市内14幼稚園

⑤視察

月 日	視 察 内 容
3月12日	鳥取県鳥取市 (教育委員会、市立津ノ井小学校、因幡万葉歴史館)

⑥会議・総会・研修会（教育長会議を含む）

月 日	会議・研修名	場 所
4月 6日	美作地区市町村教育委員会4月定例教育長会議	津山教育事務所
4月24日	平成24年度教育問題懇談会	岡山県総合教育センター (吉備中央町)
4月25日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第1回定例会	リフレセンター備前(備前市)
5月 7日	美作地区市町村教育委員会5月定例教育長会議	津山教育事務所
5月 9日	市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会	岡山県総合教育センター (吉備中央町)
5月17日～ 18日	全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会	出雲市民会館他(出雲市)
6月 6日	美作地区市町村教育委員会6月定例教育長会議	勝央町公民館
6月25日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会総会及び教育委員研修会	津山市勝北公民館
6月 4日～ 26日	平成24年6月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会

7月 3日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会役員会・総会	倉敷アイビースクエア
7月 5日	美作地区市町村教育委員会7月定例教育長会議	津山教育事務所
7月16日	「スポーツ立県おかやま」宣言式典「第67回国民体育大会（第68回冬季大会）並びに「第12回全国障害者スポーツ大会」激励式典	岡山ロイヤルホテル
7月18日	岡山県都市教育委員会教育長協議会臨時会	ピュアリティまきび
7月30日	津山市学校教育研究センター全員研修会	ベルフォーレ津山
8月 9日	岡山県史跡整備市町村協議会総会及び研修会	笠岡市民会館
9月 3日～ 27日	平成24年9月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
9月 4日	美作地区市町村教育委員会9月定例教育長会議	津山教育事務所
10月 5日	美作地区市町村教育委員会10月定例教育長会議	奈義町文化センター
10月18日～ 19日	中国地区都市教育長会定期総会並びに研究協議会	サンラポーむらくも(松江市)
11月 5日	美作地区市町村教育委員会11月定例教育長会議	津山教育事務所
11月 6日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会研修会	倉敷市役所
11月19日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会教育委員秋季研修会	鏡野町ペスタロッツ館
11月26日～ 12月18日	平成24年12月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
12月 6日	美作地区市町村教育委員会12月定例教育長会議	津山教育事務所
1月 9日	美作地区市町村教育委員会1月定例教育長会議	津山教育事務所
1月29日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第3回定例会	赤磐市立中央図書館
1月23日～ 24日	岡山県都市教育委員会教育長協議会教育行政視察	京都市教育委員会
1月31日	B&G 全国サミット	笹川記念会館国際ホール (東京都)
2月 6日	美作地区市町村教育委員会2月定例教育長会議	津山教育事務所
2月25日～ 3月19日	平成25年3月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
3月 6日	美作地区市町村教育委員会3月定例教育長会議	津山教育事務所

⑦定期発行冊子等

発 行 名	発行担当課	内 容
平成24年度津山市の教育 —津山市教育委員会60年 のあゆみ—	教育総務課	教育委員会の基本方針、具体的施策、機関、施設等を紹介。年1回発行。平成24年度は津山市教育委員会発足60周年に併せて記念誌を作成。
平成24年度教育行政重点 施策	教育総務課	教育委員会の基本方針、具体的施策等を紹介。年1回発行。

平成 23 年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書	教育総務課	教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を点検・評価したもの。年 1 回発行。
津山市教育委員会広報誌 つやま市教委かわら版	教育総務課	教育委員会や教育関係施設の活動を紹介したもの。年 3 回発行。
教育相談だより NOW	生涯学習課 (鶴山塾)	鶴山塾の教育相談状況などを紹介したもの。(教職員向け) 年 1 回発行。
年報津山弥生の里	文化課 (弥生の里文化財センター)	弥生の里文化財センターの事業概要等を紹介したもの。年 1 回発行。
津山スポーツだより	スポーツ課	施設の行事や教室案内等を紹介したもの。月 1 回発行。
津山市幼稚園 未就園児対象 園開放の紹介	こども課	津山市内の未就園児を対象にした園開放について、各学期ごとに実施日や内容を紹介したもの。年 3 回発行。
特別展図録	文化課 (郷土博物館)	学芸員の研究による展覧会の記録を紹介したもの。年 1 回発行。
津山郷土博物館年報	文化課 (郷土博物館)	博物館活動の記録を紹介したもの。年 1 回発行。
津山郷土博物館だより 津博	文化課 (郷土博物館)	イベントや講座、研究ノート等、博物館情報を紹介したもの。年 4 回発行。
津山松平藩町奉行日記	文化課 (郷土博物館)	博物館所蔵資料を紹介したもの。年 1 回発行。
洋学資料館 (機関誌)	文化課 (洋学資料館)	企画や講演会、洋学資料関連や手記などを紹介したもの。年 3 回発行。
洋学研究誌 一滴	文化課 (洋学資料館)	研究論文、資料、企画展等を紹介したもの。年 1 回発行。
生涯学習通信「まなびい」	生涯学習課	生涯学習に関する講座や公民館活動等を紹介したもの。年 1 回発行。
中央公民館だより	生涯学習課 (中央公民館)	中央公民館の活動状況等を紹介したもの。年 3 回発行。
津山市立図書館だより	図書館	施設利用案内やイベント等を紹介したもの。月 1 回発行。

◇平成 24 年度外部評価者（本報告書の作成に係る学識経験者）

氏名	所属等
片岡 由美子	元小学校校長
國藤 義隆	自営業役員（教育振興基本計画策定委員）

2.教育委員会が管理・執行する事務

自己評価	A
------	---

2. 教育委員会が管理・執行する事務	担当	教育委員会
評価理由	教育委員会の「職務権限」については、地教行法第 23 条により、19 項目(省略)について管理し、及び執行すると定めている。 次に、「事務の委任等」については、地教行法第 26 条により、「教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。」と定めている。 津山市教育委員会教育長に対する事務委任規則では、 「第 1 条 この規則は、津山市教育委員会（以下「教育委員会」という。）及び教育長の権限に属する事務執行の能率的運営とその責任の明確化を図ることを目的とする。 第 2 条 教育委員会は、次に掲げる事項を除きその権限に属する教育事務を教育長に委任する。 (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。 (2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。 (3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。 (4) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。 (5) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等に関すること。 (6) 教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ること。 (7) 法令等で定められた諮問機関の委員を委嘱すること。 (8) 学令児童・生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。 (9) 教科用図書の採択に関する一般方針を定めること。 (10) 市重要文化財を指定及び解除すること。 2 教育長は、前項の規定にかかわらず委任された事務について、重要かつ異例の事態が生じたときは、教育委員会の決定によらなければならない。 3 特に急を要した教育委員会委員長が会議に付する暇がないと認めた事項は、第 1 項の規定にかかわらずこれを教育長において代決処理することができる。この場合教育長は、次回の委員会に報告し承認を得なければならない。」と定めている。 津山市の組織機構改革（平成 23 年 4 月）に伴い教育委員会事務局は、津山市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正（第 2 条第 1 項、第 3 条第 3 項について）により、学校教育部と生涯学習部の 2 部制となり、これまで市長部局で業務を行っていた生涯学習、文化振興、市民スポーツの各部門は教育委員会に再編され、今まで以上に連携しやすい体制となった。就学前教育については、幼稚園・保育所（園）の一体的運用など国の動向を見定めるため、引き続き市長部局で業務を行っている。 「専決」については、第 3 条により、 「前条により補助執行させる事務の執行において、補助執行職員は、次に掲げる事項を除き、津山市事務決裁規程（以下「市長部局の規程」という）の規定により、所管に係わる事項を専決するものとする。この場合において、市長部局の規程に規定されていない事項については、津山市教育委員会事務決裁規程（以下「教育委員会の規程」という）の規定を準用し、専決できるものとする。 (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。 (2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。 (3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。 (4) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検並びに評価等に関すること。 (5) 教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ること。 (6) 法令等で定められた諮問機関の委員を委嘱すること。	

	2 補助執行職員は、前項の規定により専決する事務が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の規程にかかわらず、これを教育委員会に付議しなければならない。 (1) 重要かつ異例に属すること。 (2) 疑義があるとき、又は紛議を生じ、若しくは生ずるおそれがあるとき。」と定めている。 以上のことから (1) から (13) の評価項目を設定し評価することとした。
今後の対応の方向性	・教育委員会が組織機構改革で得た組織力や機動力、連携の深さを活かし、教育行政の中心的な担い手として、より高い使命感をもって津山市の教育の充実・発展のため、これらの項目に関することを適切に実行、推進する。 ・いきいきとした津山らしい社会の実現に向け、津山市教育振興基本計画（平成 24 年 2 月策定）に示された、個人の学びから一歩踏み出し、学びの成果を広く社会の中で活かすことのできる基礎となる「つなぐ力」を育むため、諸施策を展開する。 ・近年、子ども達の学力、体力、気力、規範意識や社会性の低下が懸念されている。平成 24 年度では、津山市の学校が抱える課題を明らかにし、学校教育の充実及び学校力の向上のために必要な具体的施策をより重点化した取組として「学校力向上推進プラン」を策定した。今後は、このプランと従来の継続した事業との融合により、学校・家庭・地域と教育委員会が一丸となった施策を推進し、子ども達の「確かな学力」へとつなげていく。 ・生涯学習、文化、市民スポーツの分野では、それぞれのライフステージとニーズにあった学習をし、その成果をまちづくりに活かすことが求められている。 ・権限と責任を持って津山の実情に応じた施策を主体的に実施していくことが必要であり、教育関係諸団体との連携を一層緊密にすることなど、市民の理解と協力を得ながら、教育行政を積極的に推進する。
自己評価	A

具体的な施策	(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること	担当	教育委員会
実施結果	平成 23 年度に行われた津山市の組織機構改革により津山市教育委員会は学校教育部と生涯学習部の 2 部制となった。学校教育部には教育総務、学校施設、学校教育、保健給食の各課が、生涯学習部には生涯学習、図書館、文化、スポーツの各課が所属し、今まで以上に連携しやすい体制となって一層充実が図られた。 なお、就学前教育については、幼稚園・保育所（園）の一体的運用など国の動向を見定めるため、引き続き市長部局で補助執行を行うこととした。 こうした執行体制の下で、平成 24 年 2 月に「津山市教育振興基本計画」を策定し、「つなぐ力を育む～あなたとわたし、学校・家庭・地域、そして世代を超えて～」を教育基本理念として、「あなたとわたし」の点から、「学校・家庭・地域」の面へ広がり、「過去から未来」へと時を超えて、様々なものがつながりあい、笑顔があふれ、いきいきとした津山らしい社会が実現することを目指す基本方針を定めている。 そして、教育基本理念をもとに「ふるさとを愛し 心豊かに たくましく 未来へ「つなぐ力」を育む」という教育スローガンを掲げ、各課による実施計画の策定、諸施策の実施等、適正な執行が確立され、教育委員会と市長部局が一体となって、津山市教育の充実・発展が図られた。		
自己評価	A		

具体的な施策	(2) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること	担当	教育委員会
実施結果	・◇教育委員会の活動状況(4)(5)案件参照。 条例（協議案件）・・・制定 3 件、改正 7 件、廃止 0 件 規則等・・・制定 4 件、改正 10 件、廃止 2 件		
自己評価	A		

具体的な施策	(3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置、廃止に関する事	担当	教育委員会
実施結果	・平成26年3月31日をもって津山市立阿波小学校の閉校と加茂小学校への統合		
自己評価	A		

具体的な施策	(4) 教育委員会事務局及び教育機関の職員の任免その他の人事に関する事	担当	教育委員会
実施結果	・職員の任免その他の内申		
自己評価	A		

具体的な施策	(5) 県費負担に係る校長の任免その他の人事の内申に関する事	担当	教育委員会
実施結果	・校長の任免その他の人事についての内申		
自己評価	A		

具体的な施策	(6) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関する事	担当	教育委員会
実施結果	・教頭・教諭等の人事についての内申		
自己評価	A		

具体的な施策	(7) 教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ること	担当	教育委員会
実施結果	・教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ることについて審議した。		
自己評価	A		

具体的な施策	(8) 法令等で定められた諮問機関の委員を委嘱すること	担当	教育委員会
実施結果	・12の委員会（審議会）の委員を委嘱及び任命した。		
自己評価	A		

具体的な施策	(9) 学齢児童・生徒の就学すべき学校区域を設定し 又はこれを変更すること	担当	教育委員会
実施結果	・平成26年4月1日から加茂小学校の学校区域に阿波地域を追加		
自己評価	A		

具体的な施策	(10) 教科用図書の採択に関する一般方針を定める こと	担当	教育委員会
実施結果	・該当事項無し。		

具体的な施策	(11) 市重要文化財を指定及び解除すること	担当	教育委員会
実施結果	・津山市指定重要文化財2件を新たに指定し、3件の解除を行った。		
自己評価	A		

具体的な施策	(12) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関する こと	担当	教育委員会
実施結果	・該当事項無し。		

具体的な施策	(13) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の 点検及び評価等に関すること	担当	教育委員会
実施結果	・点検・評価シートにより、4つの項目について実施した。 ・教育振興基本計画における重点取組の進捗状況を記載した。 ・学識経験者を選定し、点検・評価の総評をお願いした。 ・点検・評価 達成度一覧により、点検評価項目ごとの達成状況を明示した。 ・教育委員会の活動状況を項目ごとにまとめた。		
自己評価	A		

3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

自己評価	B
------	---

－ 1 個の確立とつなぐ力を育む【学校教育】－	自己評価	B
-------------------------	------	---

(1) 義務教育の充実	自己評価	B
-------------	------	---

[項目の総合評価]

① 確かな学力の向上		担当課	学校教育課 教育総務課
施策の実績概要 と 評価理由	「3つの提案6つの取組」、「津山市小・中学校連携事業」、「My Townつやま活用事業」、「学校支援地域本部事業」などの施策を着実に推進することはできたが、学力状況調査の結果において、2教科で県平均を上回るという目標は達成できなかった。 また、学校教育が抱える課題を明らかにし、義務教育施策を重点的に推進する実施計画として、平成28年度までを計画年度とした「津山市学校力向上推進プラン」を平成25年3月に策定した。		
今後の課題と 方向性	「津山市学校力向上推進プラン」をもとに、学力の向上、生徒指導・不登校支援、特別支援教育の推進を確実にを行い『わかる授業、楽しい学校』の実現を目指す。 今後、本プランを確実に実施するために、 ① 津山市の教育の改善に向けて、市内の保・幼・小・中が一体となって取り組める体制を早急に整備する必要がある。 ② 複雑な背景や要因のある家庭もあり、子どもたちが安心して学校生活を送るためにも各課が連携して家庭支援を行う必要がある。 ③ 推進プランの実現に向け、学校現場も最大限の努力をするが、将来を担う人材を育成するためにも、市としても人的・物的・財政的な支援を充実させる必要がある。		
		自己評価	B

[主な取組の実施結果と成果]

ア 計画的な施策の推進		担当課	学校教育課
実施結果と成果	津山市で課題とされている、学力向上、生徒指導・不登校支援、特別支援教育に重点的に対応するため、平成28年度までを計画年度とした「津山市学校力向上推進プラン」を平成25年3月に策定した。		
今後の課題と 方向性	今後は、本プランに基づく施策を着実に実施し、津山市の学校が抱える課題を改善するとともに、年度ごとに成果を検証する。		
		自己評価	A

イ 今後求められる「確かな学力」の向上		担当課	学校教育課
実施結果と成果	津山市教育委員会が示した「つやまっ子の学びを高める“3つの提案6つの取組”」を継続的に実施するとともに、学力向上のための授業改善に積極的に取り組んだ。 しかしながら、県の学力・学習状況調査では、全ての教科で県平均を下回っており、2教科で県平均を上回るという目標には達していない。		
今後の課題と方向性	今後、「津山市学校力向上推進プラン」をもとに、落ち着いた学習環境の中で、確実に学力の向上が図れるよう施策を推進する。		
		自己評価	C

ウ 学校の教育力の向上		担当課	学校教育課 教育総務課
実施結果と成果	(学校教育課) 学力向上、生徒指導・不登校支援、中一ギャップの解消のため、「津山市小・中学校連携事業」を推進しており、中学校ブロックでの取組は定着してきている。また、学力向上に向けては、小中学校をつなぐ課題（春休みの課題）の作成、「学習の約束」の中学校区ごとに統一した取組、家庭学習の保護者への啓発などを実施した。 「津山市校内研究公開推進事業」は、積極的な授業公開を進めることができ、教職員の指導力向上につながっている。 生徒指導・不登校支援については、「Q-U検査（楽しい学校生活を送るためのアンケート）」を小学校5年生で全校実施し、実態把握に基づく指導を行なった。 (教育総務課) 平成25年度での全教職員（正職員）への校務用パソコンの配備に向け、平成24年度に市内の小中学校に97台のパソコンを整備した。 また、平成21年度に策定した「学校電子情報セキュリティポリシー」を運用しており、各学校ごとの「学校電子情報セキュリティポリシー」を作成するよう依頼し、学校で所有する個人情報等の管理・漏洩防止に努めた。		
今後の課題と方向性	学校力向上推進プランをもとに「わかる授業・楽しい学校」を目指し、小・中学校連携事業、校内研究事業等の取組を一層推進し、学校の教育力の向上を図る。 パソコン導入計画（H19～25）が平成25年度で最終年度を迎えることから、平成26年度からのパソコン導入計画の策定を行う必要がある。また、校内LAN等環境整備や、新たな学校間ネットワークの構築に向けた情報収集と研究が必要である。		
		自己評価	B

エ 家庭の教育力の向上		担当課	学校教育課
実施結果と成果	子どもの家庭生活について、テレビの視聴時間が長いことや家庭学習時間が少ないことが、津山市の課題である。課題改善に向け、各校の実態把握をもとに、家庭学習の習慣化に取り組んだ。また、「津山市小・中学校連携事業」とも関連させ、中学校ブロックでの取組を進めている。 さらに「60・15キャンペーン」「チャレンジ・ハッピーデー」「げんぼくんの家庭学習」等と合わせて、リーフレット、ワークシートを使っの家庭への啓発やPTAと連携した活動等で、家庭学習の習慣化や生活リズムの定着を図った。		
今後の課題と方向性	現在の取組を継続的に推進し、家庭での学習時間0時間の児童生徒が0%になることを目指す。		
		自己評価	B

オ 地域の教育力の活用		担当課	学校教育課
実施結果と成果	津山洋学資料館や津山郷土博物館等の津山にある教育資源の活用を図るため、「My Townつやま活用事業」等で児童・生徒が教育施設を訪問し学習を深めた。また、生涯学習課と連携し、学校支援地域本部を市内9校に導入し、学習支援ボランティアの活用や地域人材を学校に招へいするなど、その活用を行った。		
今後の課題と方向性	「My Townつやま活用事業」を中心に、郷土津山への理解を進めるとともに、学校支援地域本部を市内22校に導入し、地域資源を積極的に活用する。		
		自己評価	B

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
津山市小・中学校連携事業	中学校区ごとの小・中学校が連続性と一貫性を持って、学力の課題や学習環境の課題について先進地の視察や研修会等を実施	182	学校教育課
教員のパソコンの配置	導入計画に従って、教員が校務のために使用するパソコンを配備	11,234	教育総務課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8
学力状況調査 (国・県)	調査結果の各科目 平均正答率(国・ 算(数)・社・ 理)	国語・社会 以外の科目 で岡山県平 均を下回 る。	各科目で岡 山県平均を 上回る	全科目で 県平均を 下回る 達成率 0.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
学力向上に向けては「3つの提案6つの取組」を中心に据えて取り組んできたが、平成24年度では、教育振興基本計画での取組を推進するため、津山市の学校が抱える課題を明らかにするとともに、学校教育の充実及び学校力の向上のために必要な具体的施策を取りまとめ、より重点化した取組として「学校力向上推進プラン」を策定した。今後は、このプランをもとにした体制整備を進め、目標値が達成できるよう、学校と教育委員会が一丸となった施策を推進していく。								
取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8
学習習慣の状況	学校の授業時間以外で、普段、1日 当たりの家庭学習 0時間の児童生徒 の割合	小 6年生 3.8% 中 3年生 8.1%	小 6年生 0.0% 中 3年生 0.0%	震災の影響により 悉皆調査 は 未実施				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
家庭学習の状況把握に基づく対策を講じているが、平成24年度は震災の影響で国の悉皆調査が実施されておらず、取組結果を比較することが出来ていない。津山市の家庭学習については、各小中学校・PTAでも改善策を講じていることから定着していると考えており、徐々に改善されるものと考えている。								

[項目の総合評価]

② 豊かな心の育成		担当課	学校教育課
施策の実績概要と評価理由	豊かな人間性、社会性、規範意識を育む体験活動の推進、自尊感情の育成のため、様々な施策を通して全市的な啓発活動を進めてきた。学習状況調査の結果からも、「あいさつ」「地域行事への参加」等についての肯定的な回答が県平均より高く、子どもと地域とのつながりの深さが表れた結果となっており、一定の成果は表れていると考える。		
今後の課題と方向性	今後もこれまでの施策を継続的に推進し、豊かな心の育成に努める。		
		自己評価	B

[主な取組の実施結果と成果]

ア 豊かな心の育成		担当課	学校教育課
実施結果と成果	豊かな人間性、社会性、規範意識を育む体験活動の推進、自尊感情の育成のため、学校・家庭・地域が連携して「あいさつ運動」「60・15キャンペーン」「チャレンジ・ハッピーデー」を活用した全市的な啓発活動を進めてきた。また、「My Townつやま活用事業」を全ての小学校で実施し、地域学習や体験活動の充実を図った。学習状況調査の結果からも、「あいさつ」「地域行事への参加」等についての肯定的な回答が県平均より高く、子どもと地域とのつながりの深さが表れた結果となっており、一定の成果は表れている。 職場体験も久米中学校をモデル校とし、5日間の職場体験を実施できた。また、各学校に図書司書、図書整理員を配置し、読書環境の整備や啓発活動を推進し、教育の充実を図った。		
今後の課題と方向性	徐々に成果は見られており、これまでの取組を継続する。		
		自己評価	A

イ 道德教育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	道徳的な心情等の育成のため、学校での道德教育の充実に努めてきた。学校では、道德の時間以外での道德に関わる指導内容と時期を整理した道德教育の全体計画を作成し、学校教育全体で道德の指導を計画的に推進することができた。 岡山県道德教育実践事業の研究指定を受けて、授業公開と研究発表会を行い、津山市内の道德教育推進教師の研修会も兼ねるなど、教員の資質向上を図った。		
今後の課題と方向性	各校単位での取組は推進できたが、今後は学校間の交流を進めたり、先進的な取組を紹介するなどの取組を進める。		
		自己評価	B

ウ 情報モラル教育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	インターネットや携帯電話の不用意な利用により、ネットいじめ等の事案が増加していることから、小・中学校全校で情報モラルの授業を行うなどの取組を推進した。 また、携帯電話等の安全な利用のためには、保護者への啓発活動も欠かせないことから、携帯電話の児童用啓発チラシの配付等も行った。		
今後の課題と方向性	児童生徒、保護者に向けて一層の注意喚起と、情報機器活用のルール作りを推進する。		
		自己評価	B

エ 問題行動の解消に向けた取組の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	増加傾向にある小学校での問題行動の改善や、落ち着いた学習環境の整備のため、全小学校5年生に「Q-U検査（楽しい学校生活を送るためのアンケート）」を実施し、実態把握にもとづいた学級経営を行った。 不登校の未然防止のために、「未然防止に向けての取組」を徹底して行う校内体制を各校で整備し、学校内の役割分担を明確にした。また、「不登校児童生徒の記録用紙」を活用し、実態把握をもとに個々のケースへの適切な支援ができるように取り組んだ。また、不登校が長期化する児童生徒については、鶴山塾と連携して登校支援を行った。その結果、不登校児童生徒数は減少傾向にある。		
今後の課題と方向性	不登校児童生徒に対する無支援の状況が起これないように、学校の実態把握に努め、必要に応じて指導主事や専門家を派遣するなど、学校支援に努める。		
		自己評価	B

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
Q-U検査実施事業	全国平均を上回っている本市の小中学校の不登校や長期欠席者の出現率の改善（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を実施	618	学校教育課
小中学校図書館司書、図書整理員の配置	小中学校図書館へ図書司書、または図書整理員を配置の実施	52,092	教育総務課

[教育振興基本計画における重点取組の進捗状況]

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査	問題行動認知件数の岡山県平均(1000人当り)	岡山県平均を下回る	岡山県平均値より改善する	県平均との比較 小+2.4件 中+8.5件 達成率 0.0%				
	不登校出現率の岡山県平均(1000人当り)	岡山県平均を下回る	岡山県平均値より改善する	県平均との比較 小+0.2人 中-1.8人 達成率 50.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
現在、平成24年の状況調査の集計中であり、実績値は、平成23年度の状況を集計し、平成24年度に公表されたものである。本市においては、問題行動件数、不登校者数ともに減少傾向であり、中学校の不登校出現率は県平均より改善された。今後は学校力向上推進プランの確実な実施により、出現率の改善を図っていく。								
取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
中学校における職場体験の拡充	職場体験日数	3日	5日	実績 5日1校 達成率 100.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
当初の計画通り、今年度、5日間の職場体験校1校を指定し実施することができた。課題として、生徒数に見合う受け入れ企業数の確保が難しいこと、日程・体験内容等の調整が難しいこと、新指導要領の実施に伴う授業数確保との調整が必要であることなど、課題となることも多い。今後は、実施校をモデル校として、市内の中学校に広めていきたい。								

[項目の総合評価]

③ 健やかな体の育成		担当課	学校教育課 保健給食課
施策の実績概要 と 評価理由	小学校では、「チャレンジランキング」等の普及を図り、体を動かすことへの興味・関心を高めるとともに、新体力テスト結果をもとに、各校で、児童・生徒の運動面の成果と課題を把握し指導に活かした。 また、「津山市学校給食食育将来計画」に基づき、学校・地域・家庭との連携を図りながら、食教育の推進や、食生活に関するアンケートを実施し、基本的な生活習慣の把握に努めた。		
今後の課題と 方向性	各校で、児童・生徒の運動面の成果と課題を把握し指導の一層の充実を図る。また、学校給食で把握した課題の解消に向け、学校・地域・家庭と連携し、児童生徒の健やかな体の育成を図る。		
		自己評価	B

[主な取組の実施結果と成果]

ア 学校体育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	全校で実施している新体力テスト結果をもとに、各校で、児童・生徒の運動面の成果と課題を把握し指導の充実を図った。 また、体育の授業以外の外遊びの機会提供のため、体育的な要素を含んだ集団遊びのメニュー「チャレンジランキング」を学校に紹介し、その普及を図った。直接的に児童の運動能力向上につながるわけではないが、体を動かすことや将来の生涯スポーツへの素養を育むことができるものとする。		
今後の課題と 方向性	今後も継続的に「チャレンジランキング」の学校への普及と啓発に努める。		
		自己評価	B

イ 基本的な生活習慣の改善		担当課	保健給食課
実施結果と成果	小学生(5年生)及び中学生(2年生)を対象に「食生活に関するアンケート」を実施し、児童生徒の食生活の実態の調査と分析に努めた結果、夜型の生活により早起きができず、朝食を食べない子どもたちが少なからず存在するなど、課題の把握につながった。 夏休みの親子料理教室(23小学校77名参加)、給食試食会(小中10校)などを開催し、児童生徒のみならず、保護者の学校給食に対する理解を深めた。 ※「食生活に関するアンケート」の対象者を、平成23年度から一部変更した。(小3、小6 → 小5)		
今後の課題と 方向性	親子料理教室や給食試食会などに継続的に取り組むとともに、アンケートで把握した課題の解消に向けて、家庭・学校と連携し「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発に努める。		
		自己評価	A

ウ 教育活動全体を通じた食育の推進		担当課	保健給食課
実施結果と成果	各学校で作成した「食に関する指導の全体計画」に基づき、計229回（H23は140回）の食育授業、栄養士や栄養職員が学校を訪問し朝食づくりを通じた食指導を実施したほか、食物アレルギーをもつ児童生徒に対して食材に関する情報提供を行った。また、「給食だより」を有効に活用し、児童生徒のみならず保護者に対しても食育の重要性を伝えた。		
今後の課題と方向性	今後も、学校はもちろん、地域や関係機関と連携しながら、食育の重要性を引き続き広報する。		
		自己評価	A

エ 食文化の継承		担当課	保健給食課
実施結果と成果	学校給食における旬の食材や地場産食材の活用状況を、全家庭へ配付する献立表に記載し、児童生徒及びその保護者へ知らせるとともに、行事食や伝統食について「給食だより」で紹介した。また、戸島学校食育センターで開催する「夏休み親子料理教室」とは別に、地域の食文化や食材を活用した「親子料理教室」を、西小、秀実小など5校で開催した。		
今後の課題と方向性	学校給食だけでなく、学校の家庭科の授業等とも連携し、食文化の継承に努める。		
		自己評価	A

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
食教育推進事業	「津山市学校給食食育将来計画」に基づき、学校・地域・家庭との連携を図りながら、親子料理教室や研修会等の食教育推進を実施	515	保健給食課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
運動の習慣化の促進	体育の授業以外に、児童生徒が進んで体を動かしたり、外遊び行ったりする場や機会を設定する学校の割合	64%	100%	実績値 87% 達成率 63.9%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
県の実態調査によると、ほとんどの学校で取組が進んでいる。また、チャレンジランキングについては、実態調査未実施のため、実績値を把握できていないが、一宮小学校、南小学校、弥生小学校、北小学校などは、成績上位校として表彰されるなど、市内全体での取組は広がりがつつある。								
取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
基本的な食習慣の定着	朝食を毎日食べる子	小学生 87.4% 中学生 80.4%	小学生 95.0% 中学生 95.0%	小学生 85.3% 達成率 0.0% 中学生 83.8% 達成率 23.3%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
小学生は調査対象が小3・小6であったが、H23年度から小5に変更しており直接の比較はできないものの、朝食を毎日食べる子の割合は微減した。ただし、県平均(84.8%)は上回っている。中学生は、割合が増加しており、県平均(79.5%)も上回っている。今後も基本的な食習慣の定着に向けた啓発を継続する。								
取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
地場製品の活用	年間を通して学校給食に地場製品を使用する割合	31.20%	40.00%	実績値 33.8% 達成率 29.5%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
地場製品の活用など地産地消に努めた結果、年間を通じて学校給食に地場製品を使用する割合が、前回の31.2%から33.8%へ向上した。食材調達ルート再構築を検討しており、今後一層の地場製品の活用に向けた取組みを継続する。								

【項目の総合評価】

④ 特別支援教育の充実		担当課	学校教育課
施策の実績概要と評価理由	北小通級指導教室の新設に向けた取組を計画的に進めることができた。また、特別支援教育体制整備に係る諸事業についても円滑に推進できた。		
今後の課題と方向性	今後、特別な支援を必要とする児童・生徒の増加が見込まれ、就学指導については課題も多く「教育支援委員会（仮称）」への移行に向けた研究を進める必要がある。「学校力向上推進プラン」の重点に位置付けられている特別支援教育の充実に向け、施策を実施する。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 療育と学齢期をつなぐ就学相談体制の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	計画に従い、就学相談の機会や内容の充実のため、保護者向け就学相談会を年2回実施することができたが、まだまだ参加者が少ない状況である。		
今後の課題と方向性	今後は、一層の周知を図るとともに、就学相談・教育相談による保護者への支援を進め、就学相談を随時受け付けることができるよう、北小の通級指導教室を拠点とし、活用と充実を図る。		
		自己評価	A

イ 小中学校における特別支援教育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	教員の指導力向上のため、学校での特別支援教育の推進を担当する特別支援教育コーディネーターの研修会を年3回実施し、指導力の向上を図った。また、中学校ブロックでの連絡会も年間を通じて実施するなど、年度末の情報交換だけでなく小学校と中学校が年間を通じて連携する取組も推進した。さらに、ネクストリーダー研修会を開催し次世代のリーダーの育成を図るとともに、事例収集を行ったが、実践ガイドブックを作成するまでの事例が蓄積できなかったことから、今後も継続的に取り組む。 各校における「個別的教育支援計画」の策定と「個別の指導計画」の作成100%を目指し、ほぼ全ての学校で策定できるなど、計画的な支援体制の整備を推進できた。		
今後の課題と方向性	今後は、「早期からの教育相談・支援体制整備事業」を活用し、特別支援教育センター（仮称）の設置に向けた取組を進める。		
		自己評価	A

ウ 障害がある児童生徒の自立に向けた支援		担当課	学校教育課
実施結果と成果	障害がある児童生徒、保護者の支援のため、また医療等関係機関や市内関係部署と緊密な連携を図るため、津山市発達障害支援関係者連絡協議会を1回開催し関係機関の課題を共有することができた。		
今後の課題と方向性	今後は、継続的に会を開催し、津山市における発達障害等の支援体制整備を目指す。		
		自己評価	B

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
通常の学級における指導 充実事業	通常の学級における特別支援教育の指導 充実のため、リーダー養成及び校内研究 の支援を実施	200	学校教育課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
個別の教育支援 計画の策定	個別の教育支援 計画の策定を 行っている学校	小学校 89% 中学校 62%	小中学校 100%	実績値 小学校 100% 中学校 88% 達成率 75.5%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
今年度、小学校では目標値を達成できたが、内容面や運用面の充実は今後の課題である。特別支援学級に在籍する全ての児童生徒に策定できているが、今後は、通常学級に在籍している児童生徒にも範囲を広げ、計画的、継続的な支援につなげていく。								

[項目の総合評価]

⑤ 開かれた学校づくり		担当課	学校教育課 生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	開かれた学校づくりに向け、学校評価の公開と学校評議員会の活用に取り組んできた。学校評価の公表については、徐々に浸透してきている。また、学校支援ボランティアについても、担当教員を校務分掌に位置付けたり、学校支援地域本部の導入を推進するなど、体制づくりを行ってきた。		
今後の課題と 方向性	開かれた学校づくりに向けた体制整備を進めるにあたって、学校評価等の公開に向けたシステムづくりが必要である。学校とも連携しながら学校の情報発信や学校評価の公開を推進する。		
		自己評価	A

[主な取組の実施結果と成果]

ア 学校評価の取組と学校評議員制度の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	学校と保護者・地域がお互いに理解を深め、開かれた学校づくりを推進するため、各校が行っている学校評価結果の公表を積極的に推進してきた。中学校の1校を除いてほとんどの学校で、学校自己評価の結果を公表するなど、開かれた学校づくりに向けた取組が推進できている。 また、現在全ての学校で学校評議員会が設置されており、学校運営についての地域の意見を校長に伝えたり、助言するなど、その役割を果たしている。		
今後の課題と 方向性	学校の取組や状況について、学校の説明責任を果たし、広く保護者や地域住民の協力を得ながら学校運営を進めるよう、学校自己評価とともに学校関係者評価についても公表を推進する。		
		自己評価	B

イ 学校支援ボランティア活動の推進		担当課	学校教育課 生涯学習課
実施結果と成果	開かれた学校づくりを進めるため、地域連携担当教員を校務分掌に位置付けた。さらに、担当教員が地域との窓口を務めるほか、地域の教育力を活用し、学校教育をより充実させるよう努めた。 また、生涯学習課と連携して、「学校支援地域本部事業」の実施拡大と学校支援ボランティアの登録者数を増やす取組を進めた。 地域の人が学校を応援する体制づくりを進めるため、各小中学校及び公民館を中心に学校支援ボランティアを募集し、その登録者数が平成23年の2,152人から平成24年度は2,444人となった。 また、学校支援地域本部事業の実施校が平成23年度の5校から平成24年度には9校に増加し、地域と連携した教育の推進が進んでいる。		
今後の課題と 方向性	地域連携担当が機能するように担当者研修会を開催したり、生涯学習課と連携して「学校支援地域本部」の導入校を増やすなど、地域の教育力活用に向けた取組を一層推進する。 今後、学校支援地域本部事業の拡大に伴い、学校支援ボランティアへの登録者数もさらに増加すると予想され、それに伴う予算確保が必要である。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
学校支援地域本部事業の充実	学校支援地域本部を設置している小学校数	小学校 3 校	小学校 2 8 校	小学校7校 中学校2校 計 9校 達成率 24.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
地域が学校を応援する体制づくりが進み、平成24年度は、小学校7校、中学校2校で学校支援地域本部事業に取り組んだ。今後は、平成25年度には20校以上、平成26年度には28校以上での事業実施を目指し、学校訪問等を行い、実施体制を整備していく。								

(2) 教育環境の充実	自己評価	B
-------------	------	---

[項目の総合評価]

① 安全・安心の学校づくり		担当課	学校施設課 保健給食課
施策の実績概要 と 評価理由	子どもたちが安全・安心な空間で学び生活することができるよう、耐震補強・大規模改修工事を着実に実施するとともに、セキュリティ体制強化のための施設・設備の整備に努め、よりよい教育環境の整備を図った。 また、学校における衛生面での安全・安心を確保するため、飲料水やプール水の水質検査、保健室寝具のダニアレルゲン検査を実施した。		
今後の課題と 方向性	学校施設の耐震補強・大規模改修及びセキュリティ体制強化のための施設整備を計画的に実行していく。 また、水質検査、ダニアレルゲン検討等を継続して実施することで、学校の環境衛生の向上を図り、児童生徒の安全を確保する。		
		自己評価	A

[主な取組の実施結果と成果]

ア 学校施設の耐震化と老朽化施設の改修		担当課	学校施設課
実施結果と成果	平成21年5月に策定した「津山市立小中学校の耐震化推進計画の基本方針」に基づき、施設の耐震補強と大規模改修を計画的に実施しており、本年度は10棟（北小学校校舎2棟・通級指導教室棟1棟、河辺小学校校舎2棟、久米中学校校舎2棟、北陵中学校武道場、鶴山中学校体育館、津山西中学校体育館）の工事を完了した。 また、平成25年度から着手する小学校4校の校舎棟、小学校4校の体育館、中学校4校の校舎棟について、実施設計を行った。		
今後の課題と 方向性	学校施設の耐震補強と大規模改修を計画的に実行し、耐震化推進計画事業の平成26年度完了を目指す。		
		自己評価	A

イ 学校施設・設備の整備による安全・安心の確保		担当課	学校施設課
実施結果と成果	不審者の侵入防止対策として、高倉小学校と高野小学校の2校へフェンスを設置、西小学校及び南小学校、林田小学校の3校へ防犯カメラを設置し、学校のセキュリティ体制を強化した。		
今後の課題と 方向性	囲障や防犯カメラを未整備の小学校から順次計画的に整備し、学校のセキュリティ体制を強化していく。		
		自己評価	A

ウ 学校の環境衛生		担当課	保健給食課
実施結果と成果	学校の飲料水(5月・10月)やプール水(6月)の水質検査、保健室寝具のダニアレルゲン検査(9月)を小中全校(久米中のみプールなし)で実施した。		
今後の課題と方向性	学校の環境衛生の向上を通じて、児童生徒の安全を確保するため、今後も検査を継続して実施する。		
		自己評価	A

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
小中学校改築事業	改築工事（新規1校、継続2校）	1,210,483	学校施設課
小中学校地震補強・大規模改造事業	実施設計（新規10校を実施。仮設校舎の工事監理業務を含む6校は平成25年度へ繰越）	67,069	学校施設課
〃	地震補強工事（新規4校）	601,653	学校施設課
安全・安心対策事業	囲障等設置（2校）、防犯カメラ設置（3校）	4,468	学校施設課
学校の環境衛生事業	学校における衛生面での安全・安心を確保するため、計画的に衛生検査を実施	1,165	保健給食課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
学校施設の耐震化状況	小中学校の耐震化率	68.9%	98.3%	実績値 79.6% 達成率 36.4%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
学校施設の耐震補強・大規模改修計画を前倒して実行できており、耐震化推進計画事業の平成26年度完了を目指す。								

【項目の総合評価】

② 安全・安心に配慮した学校給食の充実		担当課	保健給食課
施策の実績概要 と 評価理由	年間を通じて、学校給食における魅力ある献立の作成、安全性の確保、衛生管理の徹底等を図り、地場産品の活用など地産地消に努めた結果、年間を通じて学校給食に地場産品を使用する割合が、前回の31.2%から33.8%へ向上した。 また、公平・公正な学校給食の提供に不可欠である学校給食費の未納解消に向けて、未納者に対する支払督促を裁判所に申し立てた。		
今後の課題と 方向性	公平・公正かつ効率的な給食の実現に向けて、より安全・安心に配慮した魅力ある学校給食を目指す。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 魅力ある献立の作成		担当課	保健給食課
実施結果と成果	郷土食や伝統料理、季節感のある行事食等を取り入れ、充実した献立づくりに努めるとともに、給食食材の協力会、J A、県学校給食会等と連携し、地場産品の活用拡大など、地産地消の推進を図り、食材の運搬距離の低減により、環境負荷にも配慮できた。 また、公平・公正な学校給食の提供に不可欠である学校給食費の未納解消に向けて、未納者に対する支払督促を裁判所に対して申し立てた。		
今後の課題と 方向性	地産地消の推進に向け、食材調達ルートの見直しを実施する。		
		自己評価	A

イ 安全性の確保		担当課	保健給食課
実施結果と成果	食品添加物の少ない食材や地場産品等、より安全性の高い食材の確保に努め、食物アレルギーのある子どもたちへ、医師の診断に基づき6品目の除去食を実施した。		
今後の課題と 方向性	衛生管理の徹底と安全性の更なる向上を目指す。		
		自己評価	A

ウ 衛生管理の徹底		担当課	保健給食課
実施結果と成果	戸島学校食育センターにアレルギー調理のための環境を設備するため、施設改修の実施設計を行った。		
今後の課題と方向性	衛生管理の徹底と更なる向上のため施設整備を行う。		
		自己評価	A

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
環境保全給食関連事業	学校給食から発生する調理くずや食べ残し、廃油、食器類、包装材などを資源物として循環させ、環境負荷低減を実施	1,190	保健給食課
学校給食費未納対策事業	学校給食費の未納解消に向け、支払督促等、学校と連携・協力した取組を実施	239	保健給食課
学校給食施設等整備事業	学校給食衛生管理基準に則した施設整備とアレルギー調理のため、戸島食育センターの施設改修実施設計を実施	9,800	保健給食課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
学校給食衛生管理基準に則した施設整備	現行基準への適合	—	100%	1施設 達成率 6.25%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
4つの給食センター及び12の単独調理校のうち現行基準に適合した施設は、戸島学校食育センターのみであり、学校給食衛生管理基準に則した2箇所目となる大型センターの整備を進め、平成26年2学期からの稼働を目指す。								

【項目の総合評価】

③ 良好な教育環境の維持・向上		担当課	教育総務課 学校施設課
施策の実績概要 と 評価理由	学校施設の安全かつ適切な使用や施設使用料の負担などについて定めた津山市立学校施設使用条例を平成24年9月に制定し、マニュアルを作成して使用団体への説明会も実施した。 学校校務については、集中管理体制の人員が前年度比2名減の7名となる中で、児童生徒の安全・安心に重点を置き施設点検を中心とする業務を実施した。		
今後の課題と 方向性	学校施設の適正な使用を啓発し、施設使用料の納入勧奨に努める。 学校校務については民間が担える可能性がある業務について引続き検討していく。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 小中学校の適正規模・適正配置		担当課	教育総務課
実施結果と成果	「津山市立学校の適正な規模や配置等に関する基本方針」に基づき、保護者、学校、地域の理解や協力を得ながら小学校の統合を進めている。また、学校の適正な規模や配置等の具体的な検討のため、将来の児童生徒数等の予測を行うための情報収集等を行っているが、作業部会の設置・開催には至っていない。		
今後の課題と 方向性	今後は、市長部局が策定する津山市第5次総合計画と連動・連携しながら、将来の児童生徒数を予測し、調査研究を進める必要がある。		
		自己評価	B

イ 民間活力の導入		担当課	学校施設課
実施結果と成果	学校校務の集中管理業務において、平成24年度は人員配置を7名体制（2名減）とし、学校施設の点検など児童生徒の安全・安心に重点を置く方向で引続き業務のスリム化を図った。		
今後の課題と 方向性	引続き、学校校務業務の現状の課題を検証し、民間委託など学校施設の維持管理のあり方や効率的な組織体制を検討していく。		
		自己評価	A

ウ 学校施設の開放と使用料等の適正化		担当課	学校施設課
実施結果と成果	学校施設の使用手続きや遵守事項、施設使用料等を定めた「津山市立学校施設使用条例」を平成24年9月に制定し平成25年4月施行とした。使用団体登録、使用許可申請等の手続き、施設の使用方法、申請様式などをまとめた「津山市立学校施設使用の手引き」を作成して利用団体への説明会も実施した。		
今後の課題と方向性	学校施設使用の手引きや申請書等の様式をホームページに掲載するとともに、使用団体に対し学校施設の適正使用の啓発を行う。また、施設使用料の完納に向けて納入勧奨に努める。		
		自己評価	A

エ 教育委員会の活性化		担当課	教育総務課
実施結果と成果	「平成24年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書」の作成・公表、教育委員会発足60周年記念式典の開催や記念誌の発行を行い、教育委員会の活性化に取り組んだ。 また、「広報つやま」や津山市のホームページを活用し、教育委員会の施策や教育活動の周知に努めた。		
今後の課題と方向性	教育委員会事務局内での事務執行がさらに円滑に行えるよう、総合調整機能の充実に努める。また、地域の実情に合わせた教育行政を展開することができるよう、教育委員会関係課をはじめ市長部局、関係団体とのさらなる連携を強化し、市民ニーズを的確にくみ取り、教育行政の活性化に努める。		
		自己評価	A

【平成24年度主要事業の状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
「津山市の教育」の作成	教育活動の状況や教育委員会の施策の周知を行うため、教育委員会60周年記念誌として「津山市の教育」冊子を作成	255	教育総務課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
小中学校の適正規模・適正配置	津山市立学校整備審議会の設置	—	設置	実績なし 達成率 0.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
平成24年度では、学校の適正な規模や配置等の具体的な検討のため、将来の児童生徒数等の予測を行うための情報収集等を行っているが、審議会の設置には至っていない。今後は、将来の児童生徒数を予測するための調査研究を、市長部局と連携しながら進める必要がある。								
取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
施設使用料等の適正化	使用料等の区分、金額等の設定	—	設定	設定済 達成率 100%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
学校施設の安全、かつ、適切な使用や施設使用料の負担などについて定めた津山市立学校施設使用条例を平成24年9月に制定し平成25年4月から施行した。今後は使用団体に対し学校施設の適正使用について啓発を行っていく。								

－ 2 身近な人々のつなぐ力を育む【家庭・地域教育】－	自己評価	A
-----------------------------	------	---

(1) 青少年の健全育成の推進	自己評価	A
-----------------	------	---

[項目の総合評価]

① 青少年健全育成の総合的な推進		担当課	生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	津山市教育振興基本計画にのっとり、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、連携しながら社会全体で「つなぐ力を育む」取組を進め、青少年の“自立と社会性”を育て、“心豊かで健やかな青少年”を育成するための活動を推進するなど、青少年健全育成については、基本的な施策ごとに実施できた。		
今後の課題と 方向性	今後も引き続き、青少年健全育成のため、学校・家庭・地域・行政・教育委員会が連携しながら、健全育成活動の充実に向けて取り組んでいかなければならない。		
		自己評価	A

[主な取組の実施結果と成果]

ア 健全育成のための連携強化		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	青少年育成センター指導員による街頭指導活動を強化するため、10月から月2回2班体制で478回の指導を行ったほか、少年サポートセンターとも毎月2回合同補導を実施した。 また、市内高等学校生徒指導担当教諭・保護者とイベント時の特別補導や青少年育成指導委員等とサマーナイトパトロールを実施し、青少年の夏休み期間中の夜間徘徊防止に取り組み、平成24年度の青少年の街頭指導者数は、前年度より減少した。 津山っ子を守り育てる市民の会とともに、リージョンセンターで「津山っ子こころのふれあいトーク」を実施、また、加茂町文化センターで「街づくり人づくりクリーン作戦アピール集会」を行い、各中学校単位での取り組みを発表した。		
今後の課題と 方向性	今後も引き続き、関係機関と情報交換を行い、連携を図る必要がある。		
		自己評価	A

イ 青少年健全育成事業の推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	津山市子ども会連合会と５月から７月まで、美作大学や津山中央公民館で野外塾を３回、８月に２泊３日のサマーキャンプを境港公共マリーナキャンプ場で実施し、子ども会活動の支援を行った。 また、津山少年少女発明クラブを津山高専で月２回の工作活動や様々な体験ふれあい活動を実施し、青少年の自主性や創造性を育てる活動や学習に取り組んだ。 さらに、指導者育成のため、津山市子ども会育成指導者研修会を津山中央公民館で実施し、テント設営や飯盒炊飯での屋外調理実習を行った。		
今後の課題と方向性	青少年の自主性や創造性を育てる活動や学習を推進するため、今後も引き続き取り組む必要がある。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
街頭指導活動 の充実	青少年育成センターによる巡回指導の回数	年間270回	年間350回	年間 478回 達成率 136.6%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性 指導員の勤務体制を見直して月曜日４名、火曜日～金曜日３名とし、会議等に出席しても２名で巡回指導を毎日実施するように努めた。また、１０月から各週で月曜日の午後２班体制で巡回指導を行った。 今後も街頭指導の強化を行うとともに、指導員の後継者育成が必要である。								

【項目の総合評価】

② 相談、支援体制の整備と社会参加の促進		担当課	生涯学習課
施策の実績概要と評価理由	複雑化する相談内容に対応するため、他機関と情報交換したり、専門家の効果的な活用をしながら、具体的な支援を進めた。 また、不登校や暴力など、子育てや教育に関する相談が多くなってきており、公的相談機関として役割を果たし、不登校の子どもが学校に復帰したり、社会的自立に向けて取り組む支援を行った。		
今後の課題と方向性	支援の必要な家庭や子どもたちへの支援を進めるため、関係機関等とさらに連携を強めていく。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 相談体制の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	多様化、深刻化する相談内容に対応するために、教育相談センター鶴山塾、青少年育成センターの相談、助言、支援活動の充実を図り、市内小中学校や保育所・幼稚園などへ啓発チラシ等の配布及びホームページによる相談業務の周知を行った。 また、大学准教授や臨床心理士、学識経験者等による専門相談も実施し、義務教育修了後の青少年の相談や教職員の相談も行ったほか、年間6回の休日相談日も設けた。		
今後の課題と方向性	多種多様な相談内容に対応するため、学校やスクールヘルパー、ソーシャルワーカー等との連携を強め、支援の必要な子どもや保護者への相談・支援を進める。		
		自己評価	A

イ 支援体制の整備と社会参加の促進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	不登校児童生徒やニート・ひきこもり等の継続的な支援に向け、関係部署や関係機関等との連携を深め、ケースに応じてサポート会議を開催し、役割を明確にしながら、子ども達の支援を行った。 また、支援が必要な青少年の社会参加へ向け、関係機関と協力し個別支援方策を講じたが、義務教育修了後の青少年への継続的な支援は難しかった。		
今後の課題と方向性	複雑化する相談内容に対応するため、引き続き他機関とも情報交換し相談・支援を進めるほか、義務教育修了後の青少年を対象にした社会的自立支援を行う。		
		自己評価	B

ウ 啓発活動		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	青少年の健全育成に向け啓発活動として、鶴山塾の活動の理解を深めていただくため、「リーフレット」や「教育相談だより」を配布したほか、「広報つやま」へ定期的な掲載を行った。 また、各種団体への講師派遣や研修視察の受け入れを行ったほか、子どもたちの理解を深める教育講演会や子育てフォーラム、事例検討会等を教職員や保護者、地域の方を対象に開催した。		
今後の課題と方向性	鶴山塾の事業内容をさらに広く、深く知っていただくため、チラシや通信、広報つやま等を通じて啓発活動を行う。		
		自己評価	B

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
支援ネットワーク連携会議の開催	関係機関との情報の共有化・支援の具体化を図るため、支援ネットワークを構築し、定期的な連携会議の開催	—	年間6回	年間5回 達成率 83.3%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
関係機関との1対1個別会議(例「鶴山塾と学校教育課」「青少年育成センターと学校教育課」等)を発展させた支援ネットワーク連携会議を開催した。また、鶴山塾の役割やあり方、不登校対策・義務教育修了後の支援のあり方について、教育長、学校教育課、青少年育成センター等と意見交換を5回実施した。 今後、不登校対策や青少年の社会的自立支援のため、より個に応じた支援を進める。さらに、義務教育修了後の青少年の支援については、他の機関へもつないでいく。								

(2) 家庭・地域の教育力の向上	自己評価	A
------------------	------	---

[項目の総合評価]

① 学校・家庭・地域が連携した教育の推進		担当課	生涯学習課 図書館
施策の実績概要 と 評価理由	地域社会の教育力向上については、学校支援ボランティアや学校支援地域本部事業実施校の増加・拡充を通じて地域が学校を応援する体制づくりを図ったほか、放課後子ども教室の推進を通じて子どもの居場所づくりや体験活動の充実を図った。また、PTA活動の活性化を図ったほか、保護者同士のつながりを深めるワークショップを開催した。 つやまっ子読書プランの推進については、市立図書館と連携し音読大会を開催したほか、読書絵手紙教室の開催とその作品展示も行った。 図書館資料は、市内の大学や高校との相互利用や小学校等への貸出を行い、スポーツ団体とも協力してブックリストを作成するなど、市立図書館の機能を活かした読書活動を推進した。（団体への貸出冊数：計57,247冊）		
今後の課題と 方向性	学校支援ボランティア、学校支援地域本部事業は、H25年度は2,500人の登録と20校以上での実施をめざしている。また、放課後子ども教室は、14教室から1～2か所の増加をめざしている。 読書活動の推進については、学校、家庭、地域が連携した資料の提供や、本の読み聞かせなどを推進し、次代の担い手を育む取組みも充実させるほか、つやまっ子読書プランについては、H25年度に第3次計画の策定を行い、H26年度から実施する。		
		自己評価	A

[主な取組の実施結果と成果]

ア 地域社会の教育力の向上		担当課	生涯学習課 図書館
実施結果と成果	学校支援ボランティアは、現在2,444名の登録があり、学校内外で見守り活動や授業支援などで子ども達を支援している。また、学校と地域が連携して教育を進める学校支援地域本部事業については、啓発が進みH23年度の5校からH24年度は9校で実施した。 放課後子ども教室は、H24年度の14教室からH25年度は15教室で実施する。 図書館は、美作大学、津山工業高等専門学校を始め、市内の6高校と連携し、資料の相互利用や講演会の開催など読書環境の整備を図った。津山中央病院医療情報プラザとの業務提携により、来館困難な入院患者に対する資料の貸出サービスや、医療、健康情報などの交換を行った。（貸出冊数：美作大学 483冊、津山高専 151冊、高校 2,049冊、津山中央病院 529冊、計3,212冊）		
今後の課題と 方向性	学校支援ボランティア、学校支援地域本部事業は、H25年度は2,500人の登録と20校以上での実施をめざしている。また、放課後子ども教室は、14教室から1～2か所の増加をめざしている。		
		自己評価	A

イ 連携体制の強化		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	子どもの健全育成については、青少年育成センター、鶴山塾、津山っ子を見守り育てる市民の会、青少年育成指導連絡会、津山市子ども会連合会など関係機関や団体との連携を進め、事業に取り組むことができた。 学校・家庭・地域を結ぶ役割を果たすため、PTA活動の活性化を目的としてPTAリーダー研修会、PTA教育講演会などを開催した。また、PTA研修では、「おやじの会」の実践発表なども行い、地域の教育力の啓発に努めた。		
今後の課題と方向性	子どもの健全育成を行うため、関係機関や団体との連携や協働を進めるほか、PTAの活性化を図りながら保護者同士のつながりを増やし、地域の教育力向上に努めます。		
		自己評価	A

ウ 読書活動の推進		担当課	生涯学習課 図書館
実施結果と成果	子ども読書活動では、「第2次津山市子ども読書活動推進計画（つやまっ子読書プラン）」に基づき、親子音読大会、教科書音読コンテスト、音読発表会～冬の陣～、子ども読書週間パネル展、2・5年生対象読書インタビューなどを実施した。 また、指導者研修として学校司書向けと読書ボランティア向けに研修会を開催したほか、読書絵てがみ教室及び読書絵てがみ展なども開催した。 図書館の取り組みとして、各小学校のニーズに応じて、自動車文庫の巡回や学校図書館への資料貸出などを行い、子どもたちの読書環境の充実と読書活動の推進を支援したほか、地元サッカーチームの選手によるブックリストを作成し、市内小学校に配布し、地域全体で読書活動を通じた子育て力の向上を図った。		
今後の課題と方向性	子どもの読書活動を推進するため、音読大会や指導者研修会を開催するほか、第3次津山市子ども読書活動推進計画（つやまっ子読書プラン）をH25年度に策定し、H26年度から実施する。また、各学校での蔵書管理や利用環境等には相違があり、各種情報の共有化による読書活動の推進を目指す必要がある。		
		自己評価	A

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
学校支援地域本部事業	学校支援ボランティアの活用をさらに進め、地域ぐるみによる学校支援の意義を啓発するとともに、組織的に学校を支援する「学校支援地域本部事業」の拡大取組を実施	2,087	生涯学習課
放課後子どもプラン推進事業	放課後の子どもの安全で健やかな居場所作りのために、運営委員会の開催、「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携、「放課後子ども教室」の委託を実施	5,073	生涯学習課
つやまっ子読書プラン推進事業	読書プランを推進するため、親子音読大会や教科書音読大会による啓発、「お薦め読書カード」の取組等を実施	200	生涯学習課
図書館ネットワーク推進検討事業	資料のデータベース化と、市立図書館も含めた蔵書管理ネットワークシステムの構築を目標に、必要な機能と事業効果等について関係者による「図書館ネットワーク研究会」を立ち上げ、調査研究を開始	—	図書館
図書館展示コーナー利活用事業	展示コーナーを活用し、健康、福祉、観光、子育てを始めとする各種資料・情報等の提供や、他都市図書館との連携による観光情報の交換展示を実施	—	図書館

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
学校支援ボランティア活用事業	教育支援、環境整備、安全支援等の学校支援ボランティア登録者数	2,009人	3,000人	2,444人 達成率 43.9%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
地域が学校を応援する体制づくりが進み、学校支援ボランティアの登録者数が平成24年度は、2,444名であった。今後は、平成25年度の登録者数を2,500人を目指し啓発を進めていく。								

[項目の総合評価]

② 家庭教育への支援		担当課	生涯学習課 学校教育課
施策の実績概要 と 評価理由	家庭教育の重要性について保護者の意識向上と社会への啓発を目的として家庭教育チラシ配布やフェイスブックなどで情報発信を行った。 また、PTA対象研修会、親子論語教室、家庭教育推進事業（親学講座）、親子ふれあい教室（幼稚園14園）、教職員やPTA向けの家庭教育支援ワークショップ等を開催した。		
今後の課題と 方向性	つやまっ子家庭教育推進事業を中心に保護者への啓発や学習機会の提供を行うほか、保護者の人間関係づくりを進めるようなワークショップを学校園と連携して行う。		
		自己評価	A

[主な取組の実施結果と成果]

ア 情報の提供		担当課	生涯学習課 学校教育課
実施結果と成果	（生涯学習課） 家庭教育の重要性や保護者の意識啓発を図るため、乳幼児などの保護者が集まる津山子どもまつりや音読大会などでパネル展を行い、作成した家庭教育チラシを配付したほか、新生児の親に家庭教育手帳を配付した。また、フェイスブックにより子育てワンポイントアドバイスを発信した。 （学校教育課） 学校・家庭・地域が連携して「あいさつ運動」「60・15キャンペーン」「チャレンジ・ハッピーデー」を活用した啓発活動を進めてきました。（再掲）		
今後の課題と 方向性	家庭教育の重要性や意識啓発を図るため、学校・家庭・地域が連携し、家庭教育についての啓発チラシやフェイスブックなどでの情報発信を行う。		
		自己評価	A

イ 学びの推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	家庭教育の大切さや親子のふれあいの大切さについて、PTA等を対象に家庭教育リーダー研修会（1回55人）、親子論語教室（3回150人）、親学講座（小27校、中7校）、親子ふれあい教室（幼稚園14園）等を開催した。また、教職員やPTA向けに家庭教育支援ワークショップ（2回70人）を開催した。		
今後の課題と 方向性	家庭教育親学講座や親子ふれあい教室などを中心に「つやまっ子家庭教育推進事業」を推進するほか、親子で参加できる子育て研修会なども開催する。		
		自己評価	A

ウ 相談体制の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	教育相談センター鶴山塾では、子どもを取り巻く家庭環境や子育ての悩み等、複雑化する相談内容に対応するため、通常の面接相談・電話相談に加え、臨床心理士や学識経験者等による専門相談を実施した。また、関係機関と連携し相談体制の充実を図り、主に小・中学生の通塾支援や訪問支援など具体的な支援に努めた。 義務教育修了後の青少年を対象にした教育相談も実施したが、具体的な支援ができにくいケースもあり、他機関での支援体制も必要な状況である。		
今後の課題と方向性	相談内容が多様になってきており、学校、関係機関、スクールヘルパー、ソーシャルワーカーなどとの連携がより必要で、今後、互いの役割を分担しながら相談体制の充実を図っていきたい。		
		自己評価	B

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
家庭教育推進事業	津山市版家庭教育手帳を活用し、小中学校区ごとに親学講座を開催し、子どもの学力・体力の低下、生活習慣の乱れ、さらに家庭や地域の教育力等の社会的課題に対しての取組を実施	990	生涯学習課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
家庭教育親学講座・家族ふれあい教室の開催	小学校での親学講座・家族ふれあい教室の参加者数	4,706人	5,000人	4,709人 達成率 1.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性 参加人数が微増となっているが、今後、学校園との連携を強化し、家庭教育親学講座や家族ふれあい教室など保護者の学習機会をより充実させるとともに、保護者の人間関係づくりを通じた家庭教育力向上をはかる。								

[項目の総合評価]

③ 地域資源を活用した学習の推進		担当課	生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	公民館運営方針に、地域資源を活用した活動を推進することを掲げている。各公民館の主催講座や文化祭において、また、他団体との共催事業において、地域の歴史や史跡を学ぶ機会を提供した。		
今後の課題と 方向性	多くの地域団体に、津山の歴史や文化を見直す学習を呼びかけていき、地域づくりにつながる活動を支援することが必要である。		
		自己評価	A

[主な取組の実施結果と成果]

ア 地域資源の活用		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	美作国建国1300年記念事業に関連させ、公民館の主催講座として郷土の歴史や文化、農産物などについて認識を深めるなど、地域を見直す学習機会を提供し、多くの参加者があった。（7館延63回 延1,415人）		
今後の課題と 方向性	平成25年度の美作国建国1300年記念事業に関連付け、地域をより深く理解するような学習機会を提供する。		
		自己評価	A

イ 学習機会の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	津山の歴史や文化に関連した内容を取り上げ、大人の社会科見学、中国文化入門講座、津山の歴史入門講座などを開催したほか、鶴山中学校と連携して大人の学校を、また美作大学と連携して「美作学講座～吉備の国分寺を探る～」を開催した。 また、公民館講座の中で、弥生の里文化財センターや洋学資料館などで学芸員や地域の専門家の話を聞き、津山に対する関心を深め、ふるさつを見直す学習機会を設けた。		
今後の課題と 方向性	今まで、大人を対象にした学習機会の提供が中心であったが、今後は、子ども達が地域の歴史や文化、産業など郷土について学ぶ機会をより充実させるとともに、郷土への愛着を高めるようなテーマ設定と講座企画が必要である。		
		自己評価	A

ウ 関係機関との連携・協力		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	美作国建国1300年イベントの開催に合わせ、「美作学講座～吉備の国分寺を巡る～」(4回270人)を美作大学と、「つやまの歴史入門講座」(1回200人)を新聞社と連携し開催した。また、中学校と連携し「大人の学校」(6回150人)を、また、勝北陶芸の里工房や津山郷土博物館等と連携し「大人の社会科見学」(5回120人)を開催した。さらに、公民館と津山工業高等専門学校と連携し天体観測などを開催し、親子で学び合う学習活動を推進した。		
今後の課題と方向性	津山市の歴史や文化、産業などについて知り、郷土への愛着を高めるような学習機会を提供するため、関係機関との連携をさらに深めていくことが必要である。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
公民館における地域学習の開催	公民館で開催する地域学習講座に参加した人数	1,051人	1,300人	1,415人 達成率 146.2%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
主催講座として、多くの公民館で地域の歴史や文化、人材などの地域資源を活用した学習機会を提供する取組みを推進し、目標達成を図る。								

－ 3 過去から現在、未来へつなぐ力を育む 【生涯学習・スポーツ・文化】－	自己評価	A
--	------	---

(1) 生涯学習環境の整備	自己評価	A
---------------	------	---

[項目の総合評価]

① 生涯学習の推進		担当課	生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	「第3次津山市生涯学習推進計画」をより推進し、「豊かな人間性を育む生涯学習社会」、「ふるさと津山を愛する教育文化都市」、「未来を拓く共創・協働社会」の実現を掲げ、関係部署間の連携と生涯学習機会の充実を図ることができた。		
今後の課題と 方向性	「第3次津山市生涯学習推進計画」をより推進するため、今後より関係部署間の連携を強化し、生涯学習の推進を図る。		
		自己評価	A

[主な取組の実施結果と成果]

ア 生涯学習の推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	「第3次津山市生涯学習推進計画」をより推進し、「豊かな人間性を育む生涯学習社会」、「ふるさと津山を愛する教育文化都市」、「未来を拓く共創・協働社会」の実現を掲げ、関係部署間の連携と生涯学習機会の充実を図ることができた。また、第3次推進計画の実施期間について、津山市総合計画との整合性を図るため、平成27年度まで1年延長した。		
今後の課題と 方向性	「第3次津山市生涯学習推進計画」をより推進するため、関係部署間の連携をより進め、生涯学習機会の充実を図る。		
		自己評価	A

イ 協働による生涯学習推進体制の確立		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	生涯学習推進体制の充実を図り、生涯学習による人づくりや地域づくりにつなげていくため、市長をトップとする生涯学習推進本部会議のほか、生涯学習推進本部幹事会、生涯学習推進懇談会などを開催し、関係部署間で連携を図りながら教育委員会以外の所属でも生涯学習関連事業を実施し、全庁をあげた生涯学習推進体制をより充実させることができた。		
今後の課題と 方向性	生涯学習推進本部会議、生涯学習推進本部幹事会、生涯学習推進懇談会などにより関係部署間の連携をより進め、津山市の生涯学習推進体制の充実を図る。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
生涯学習関連事業	市の各部署が実施した生涯学習関連事業のA評価（達成率95%以上）の割合	90%	95%	89% 達成率 0.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
生涯学習推進本部会議、生涯学習推進本部幹事会、生涯学習推進懇談会などの開催により、市関係部署間の連携をより進めながら、各部署が実施した生涯学習関連事業のA評価（達成率95%以上）の割合を向上させる。								

【項目の総合評価】

② 学習情報・機会の提供		担当課	生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	生涯学習情報の提供については、広報紙やインターネットなどに加え、平成24年度からフェイスブックでの情報発信にも取り組むことができた。 市民が参加しやすい生涯学習の環境づくりについては、津山の郷土理解につながるような「大人の学校」、「大人の社会科見学」のほか、公民館を会場にした「公民館主催講座」や「公民館文化祭」などを開催し、市民の生涯学習を進めることができた。 学習機会の提供と支援体制の充実については、生涯学習情報誌の発行のほか、リクエスト大学を実施することができた。		
今後の課題と 方向性	市民の生涯学習推進のために市民ニーズの把握及び情報発信に努めるほか、市民向け講座についても公民館等と連携して実施する。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 生涯学習情報の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	生涯学習情報をまとめた生涯学習情報紙「まなびい」を43,400部発行し、津山市広報紙等を通じて全戸配布した。また、生涯学習課ホームページの定期的な更新に加え、新たにフェイスブックを通じた情報発信も開始した。さらに、二度の公開討論会を津山テレビを通じて放映し、広く生涯学習について啓発を行った。		
今後の課題と 方向性	生涯学習情報を積極的に発信するため、生涯学習情報誌「まなびい」の発行やホームページ、フェイスブックなどを通じて広く情報発信する。		
		自己評価	A

イ 市民が参加しやすい生涯学習の環境づくり		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	市内22公民館で市民の視点に立った公民館主催講座を開催したほか、公民館文化祭を開催し、生涯学習の学びの成果を発表する場の提供や、地域住民の交流の場を設けることできた。また、勝北シルバー大学（8回、313人）や格致大学（9回、138人）など、高齢者向けの講座や教室等を開催した。		
今後の課題と 方向性	公民館を中心に市民の視点に立った講座や教室等の開催や勝北シルバー大学、格致大学の開催を通じて、生涯学習の環境づくりを行う。		
		自己評価	A

ウ 学習機会の提供と支援体制		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	市民のニーズに応じた学習機会の提供と支援体制を充実するため、各講座終了後にアンケートを実施し、ニーズ把握に努めたほか、家庭教育支援講座など、時代の要求に応える講座開催のほか、地域の歴史や文化などの学習を通じて津山への愛着を深めるような講座を関係機関との連携により開催した。また、生涯学習リクエスト大学では、生涯学習による人づくり、まちづくりにつなげるため、実施メニューの内容充実を図った。 公民館では、行政による学習機会提供から、市民自らが企画運営するような学習形態への移行を支援し、市民自らが生涯学習を推進する体制づくりを進めた。		
今後の課題と方向性	市民のニーズ把握と必要課題の調査等により学習機会の見直しを進めるほか、生涯学習を通じた人づくり、まちづくりを積極的に進めるため、生涯学習リクエスト大学のメニューを充実させます。さらに、市民自らが生涯学習を推進する体制づくりのため、市民の自主運営型講座開設を支援します。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
生涯学習リクエスト大学	市が行っている仕事の中で市民が聞きたいこと、知りたいことを、市職員が講師となり講座を開催	利用者数 118件 参加者数 4,791人 講座数 42講座	利用者数 130件 参加者数 5,050人 講座数 45講座	利用者数 126件 達成率 66.7% 参加者数 5,385人 達成率 229.3% 講座数 44講座 達成率 66.7%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
平成24年度の生涯学習リクエスト大学の利用については、利用件数126件、参加者数5,385人、講座数44講座で、参加者数が目標数を超えるなど、多くの市民への学習機会を提供できた。								

[項目の総合評価]

③ 拠点施設の整備		担当課	生涯学習課
施策の実績概要と評価理由	平成24年4月に久米公民館の落成式を行い、一般へ供用を開始したほか、津山東公民館建設について、計画通り土地購入及び土地造成、本体の基本設計を完了することができた。また、公民館運営審議会や公民館活動推進協議会において、地域住民の意見を取り入れた。 また、市民の多様化・高度化する学習活動を支援するため、資料や情報の収集・整理・保存に努めるとともに、関係機関と連携した各種講演会や館内に設置された放送大学津山教室での教材の視聴などにより、地域の情報拠点・学習拠点として市民に役立つ図書館サービスの向上に努めた。		
今後の課題と方向性	平成26年春の供用開始を目指し津山東公民館建設工事を推進するほか、公民館運営審議会や公民館活動推進協議会において、地域住民の意見を取り入れた。 また、公共図書館の果たすべき役割を十分認識し、開催行事を工夫するなど、広く市民の利用に供する体制を維持する。		
		自己評価	A

[主な取組の実施結果と成果]

ア 社会教育施設の整備と利活用促進		担当課	生涯学習課・図書館
実施結果と成果	津山東公民館建設工事を計画的に推進し、土地購入及び土地造成、公民館建物の基本設計を完了させたほか、地域住民の意見を反映させるため、津山東公民館整備検討委員会とその作業部会を開催した。また、津山市の公民館の老朽箇所の修繕や、トイレの洋式化に取り組み、住民が安心・安全に公民館を利用できるように整備を行ったほか、公民館整備の指針となる、整備方針の策定に取り組んだ。 図書館では、地域社会の様々な問題解決や地域振興の支援のため、関係団体・機関と連携してビジネス講演会や健康セミナー等の各種講座を開催し、情報・資料を提供した。昨年度開設した放送大学岡山学習センター津山教室に、県北在学者の履修科目や一般市民に向けた資格取得、健康、歴史等人気の視聴教材を配架・提供した（室内利用61回、室外DVD貸出68回）。また、同大学の教授陣による市民向け連携講座（歴史講座2回）も開催した。		
今後の課題と方向性	津山東公民館建設工事について、本体工事を進め平成26年春の供用開始を目指すほか、老朽化が進行している公民館については、限られた予算の中で、計画的な修繕が必要である。 また、市民一人ひとりが生涯にわたり学習することができ、その成果を適切に活かせるような地域社会の実現を支援していく。		
		自己評価	A

イ 施設運営への市民参画と民間活力の導入		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	公民館運営審議会において、全市的な公民館の運営方針を協議した。また、各公民館ごとに設置している公民館活動推進協議会において、公民館活動の協議・運営を行った。 また、図書館を子育て支援の一拠点として、約80人の図書館ボランティア等の協力により、おはなし会や工作教室を開催し、親子でふれあいながら本に親しみ、読書の楽しさを知るきっかけ作りを行った。		
今後の課題と方向性	公民館運営審議会や公民館活動推進協議会等で、市民参画をより進める。 また、図書館ボランティアと協働で読書活動の導入を行い、魅力的な図書館運営を図る。		
		自己評価	A

ウ 職員の資質向上		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	中国・四国地区公民館研究集会や岡山県生涯学習センター主催の研修会に積極的に参加し、現代的課題に対する取り組み方を学習した。 また、津山市でも社会教育委員、公民館長、学校司書、学校支援地域本部に係る地域コーディネーター、学校の地域連携担当者等を対象に研修会を開催した。		
今後の課題と方向性	県などが行う社会教育に係る担当者研修会への積極的な参加と、津山市独自の研修会を通じて、職員の資質向上を図る。		
		自己評価	A

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
公民館整備事業	公民館空白地域の解消と生涯学習活動の推進のため、津山東公民館整備事業（用地買収・造成・実施設計）を実施	85,809	生涯学習課
放送大学津山教室充実事業	県北在学者の履修科目教材等を配架し、同大学教授陣による生涯学習講座を開催	—	図書館

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
生涯学習施設での魅力的な企画づくり	公民館・図書館・スポーツ・文化施設等の利用者数	1,426,000人	1,515,000人	1,561,690人 達成率 152.5%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
生涯学習を通じた人づくり、まちづくりを積極的に推進するため、公民館、図書館、スポーツ・文化施設などで魅力ある企画づくりを積極的に進め、目標値を上回る施設利用者があった。								

[項目の総合評価]

④ 生涯学習成果の活用		担当課	生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	学習成果を活かす仕組みづくりの充実を通じて、持続可能な地域づくりにつなげるため、「津山市こどもまつり」の開催や学校支援ボランティアの活用などを進めることができた。また、生涯学習人材バンクの登録者数を増加させることができた。		
今後の課題と 方向性	市民が生涯学習の成果を活かし、まちづくりにつなげるため、意識啓発を進めるとともに、地域課題の解決や持続可能な地域づくりができる仕組みづくりの充実を図ります。		
		自己評価	A

[主な取組の実施結果と成果]

ア 学習成果を活かす意識啓発		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	学んだ成果を活用した「津山市こどもまつり」「津山市生涯学習まつり」を開催することができた。また、学校支援ボランティアの登録者を増やすことができたことで、地域の大人が学びの成果を子ども達へ還元する仕組みづくりを充実させたほか、その関係者の資質向上をより図るための研修会を開催することができた。		
今後の課題と 方向性	学びの成果を地域で循環させ、地域づくりにつなげるようにより意識啓発を進めるほか、実際に学びの成果を活かせるような体制づくりと核になる人材の育成を進めます。		
		自己評価	A

イ 持続可能な地域づくり		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	生涯学習活動を通じた学びの成果を地域で循環させ、持続可能な地域づくりにつなげるため、生涯学習人材バンクへの登録者を増やすことができたほか、保護者の人間関係づくりを通じて子育ての不安や悩み解消につながるような公民館での居場所づくりなどを進めることができた。また、各地区公民館において、親子学級や高齢者学級を開催し、子育てや健康問題などに対する学習を行った。		
今後の課題と 方向性	生涯学習活動による学びの成果を活かした持続可能な地域づくりにつなげるため、生涯学習人材バンクの登録者を増やすほか、公民館などで学習したことを家庭や地域で活かせるような仕組みづくりを行う。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
津山市生涯学習人材バンクの登録者数	生涯学習活動を推進・支援する人材を発掘、育成、活用するための仕組みを構築するもの	登録者数 46人	登録者数 120人	登録者数 62人 達成率 21.6%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
生涯学習活動を通じた学びの成果を循環させ、地域づくりなどへつなげるため、生涯学習人材バンクへの登録者を増やことができた。また、今後も、人材バンクへの登録者数をより増やす取り組みを進める。								

(2) スポーツ活動の支援と施設の活用	自己評価	B
---------------------	------	---

【項目の総合評価】

① 生涯スポーツの振興		担当課	スポーツ課
施策の実績概要と評価理由	「津山市スポーツ振興計画」に基づき、市民が健康で明るく活力ある生活を送ることができるよう、公的団体や地域と、利用する市民や競技者が一体となって、スポーツの機会を提供するとともに、スポーツニーズの多様化に対応するため、国県の指導者養成事業を活用し、関係機関・団体と連携を図りながら指導者の養成に努めた。また、「見るスポーツ」の啓発に努めるとともに、スポーツと観光・産業との連携、交流人口の拡大に取り組み、各種スポーツ行事のPRや関係団体の支援に努めてきた。		
今後の課題と方向性	「津山市スポーツ振興計画」に基づいた中長期的な視点のもと、さらに関係機関・団体と連携強化を図っていくとともに、市民のニーズを的確に把握し、時代に即応したスポーツメニューの提供を図っていく必要がある。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 生涯スポーツ社会の推進		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	市民一人ひとりが、それぞれの体力・年齢・技術・目的に応じて、いつでも・どこでもスポーツに親しみ、楽しむことができる「総合型地域スポーツクラブ」の育成支援と生涯スポーツの推進を図った。 また、継続的に「つやま市民スポーツ祭」を開催することにより、更なるスポーツ人口の拡大を図った。		
今後の課題と方向性	すべての市民に、それぞれの体力、年齢、目的等に応じたスポーツの場が提供できるよう、地域でのスポーツ実践の場が増加するよう支援していく。また、「市民スポーツ祭」については、競技内容等アトラクションに工夫を加えるなど、改善改良の余地が残されている。		
		自己評価	B

イ スポーツ指導者の育成と活用		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	スポーツ少年団認定指導員講習会等を通じての、人間性豊かで高い専門性を有する有資格指導者の計画的・体系的な育成と確保を行った。		
今後の課題と方向性	スポーツ少年団認定指導員資格取得を始めとして、各種個々のスポーツの専門的技術、資格取得のための更なる支援が必要である。		
		自己評価	B

ウ スポーツ活動の啓発とスポーツ関係団体の支援		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	津山スポーツ振興財団、津山市体育協会、津山市スポーツ少年団等の組織・体制の充実並びに育成への支援を行った。 また、岡山市をホームタウンとする、プロスポーツチームへの側面からの支援や活動内容の紹介を行った。		
今後の課題と方向性	津山スポーツ振興財団、津山市体育協会、スポーツ少年団等の横の連携により、各種団体の活動内容の紹介、参加への啓発を幅広く市民に浸透していく必要がある。		
		自己評価	B

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
地域総合型スポーツクラブ育成事業	国・県も推進している地域総合型スポーツクラブ「しょうぼくスポーツクラブ」(会員数約400人)の各種教室や開催事業への支援及び育成を実施	2,300	スポーツ課
健康スポーツ推進事業	「つやま市民スポーツ祭」、全国から参加する「津山加茂郷フルマラソン全国大会」開催の支援 久米市民プール、グラスハウス等の健康増進施設の維持管理及び利用促進の実施	107,100	スポーツ課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
スポーツ指導者数	社会体育における指導者数	スポーツ推進員62人	スポーツ推進員67人	スポーツ推進員61人 達成率0.0%				
		スポーツ少年団指導員684人【うち認定指導員326人】	スポーツ少年団指導員750人【うち認定指導員400人】	スポーツ少年団指導員672人【うち認定指導員328人】 達成率0.0%				
		スポーツ教室指導員289人	スポーツ教室指導員350人	スポーツ教室指導員291人 達成率3.3%				

事業の進捗状況及び今後の課題と方向性

平成23年度と比較してほぼ横ばいという状況にある。少子高齢化、人口減社会を迎え、スポーツ人口の増加を目指していくため、生涯スポーツの重要性を広く市民に認識していただくことが必要であり、そのためにインターネット、広報紙等の情報手段を活用し、啓発に努め、さらに指導者講習及び資格取得講習等の受講を促し、有資格者の増加を図っていく必要がある。

【項目の総合評価】

② スポーツ環境の整備		担当課	スポーツ課
施策の実績概要と評価理由	津山市スポーツ推進審議会や体育協会等の関係団体の意見を聞きながら、安全性の確保と利用者促進を図るため、計画的な施設の整備充実に努めるとともに、施設利用者の利便性向上に向けてホームページ等を使った情報発信を行ってきた。 また、指定管理者制度を導入している施設については評価検証を行なうとともに、他の施設についても民間活力の導入についての調査研究を行った。施設の運営・改修等については、施設利用者から意見を聴取し、市民ニーズを反映し、市民参画を積極的に推進した。		
今後の課題と方向性	施設整備については、各種スポーツ関係団体の意見を聞きながら、施設の老朽化、市民ニーズ等を勘案しながら、優先順位を定めて順次進めていく。また、市民ニーズを把握するためインターネットの活用を検討していく必要がある。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 施設の計画的な整備と利用促進		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	経年劣化による雨漏り対策のため、東部小体育館屋根の改修を行った。 また、ホームページによる情報発信の充実や、体育予約システムの改修、更新を行い、利用者の利便性の向上を図った。		
今後の課題と方向性	財政事情を考慮しながら、優先順位を定めて計画的に施設整備を進めていく。また、施設利用の利便性を高めていく必要があり、早期の体育予約システムの更新が必要となっている。		
		自己評価	B

イ 施設運営への民間活力の導入と市民参画		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	利用者サービス向上に向けた指定管理者制度等、民間活力導入の検討を行った。また、利用者アンケート等による施設利用者からの意見聴取を行い、施設運営改善への反映を行った。		
今後の課題と方向性	合併後市域が広がり、各所にスポーツ施設が点在している。市民参画の視点から管理運営については、地域を含めた民間活力を導入していくことが必要である。		
		自己評価	B

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
社会体育施設整備事業	老朽化した東部小体育館の屋根等の改修	18,293	スポーツ課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
スポーツ・運動 活動の拡大	社会体育施設の 年間利用者数	770,603人	800,000人	842,909人 達成率 246.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
平成24年度については、グラスハウスがスポーツ課の所管となり、その入場者をカウントしているため、実績については大幅な増加となっている。しかしながら、社会体育施設の利用状況については、ある程度利用者が固定化しているのが現状である。今後、スポーツ人口の増加を目指して、施設の整備、インターネット等情報手段を利用した広報、啓発等を積極的に展開し、未利用者への呼びかけを行っていく必要がある。								

【項目の総合評価】

③ 競技力の向上		担当課	スポーツ課
施策の実績概要と評価理由	競技力向上の環境を整えるため、津山市体育協会や津山市スポーツ少年団等が実施する、専門性を高めるための指導者研修会等を支援するとともに、優秀な選手の育成や確保のため、全国大会等に出場する選手を激励・顕彰し、競技力の向上への支援を行ってきた。 また、関係団体との競技力向上に向けた課題を共有し、連携強化を行った。		
今後の課題と方向性	競技力向上については、指導者の育成が重要であり、そのための具体的メニューを示して積極的に受講促進を促す必要がある。 また、優秀選手については津山市内外にその情報を発信し、津山市全体の競技力の向上に向けて取り組んでいきたい。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 競技スポーツの専門的指導者の育成・支援		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	津山市体育協会や津山市スポーツ少年団等へ財政的に支援を行うとともに、他団体主催の各種研修会開催の情報提供を行い、専門的指導者育成のための支援を行った。 また、指導者の専門性を高めるため、スポーツ推進委員については、岡山県、中国地区、全国レベルの研修会に参加し、スポーツ少年団については、年1回、母集団研修会、指導者研修会を開催するとともに、体育協会においては育成指導委員会を中心としてスポーツ指導者研修会を随時開催しており、その開催のための支援を事務局として支援を行ってきた。		
今後の課題と方向性	スポーツ少年団の認定指導員の資格取得に向けて受講を促すとともに、専門性の高い指導者を育成するための支援策を構築していく必要がある。		
		自己評価	B

イ 全国大会等出場選手への支援		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	優秀選手の顕彰を行うため、平成24年度においては、全国大会等に出場する選手の激励壮行会を89回開催し、198万5千円の激励金の交付を行った。種目については、陸上競技、テニス、サッカー、体操、柔道、剣道、空手等多種目にわたっている。		
今後の課題と方向性	全国大会等に出場する選手に対しての激励壮行会開催、激励金交付については、現状を維持する。優秀選手の顕彰については、インターネット等の情報発信手段を活用し、市内外に周知していく。		
		自己評価	A

ウ 関係団体への連携強化		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	津山市体育協会、津山市スポーツ少年団、勝北スポーツクラブ、加茂海洋クラブ等各スポーツ団体の年間行事、活動についての情報交換、提供を行い、情報を共有するとともに、他団体主催の事業への参加、視察等も行い、横の連携の強化を図った。		
今後の課題と方向性	津山体育協会等市内スポーツ関係団体の横の連携がさらに必要であり、情報を共有することによる相互利用を目指す必要がある。		
		自己評価	B

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
競技力向上事業	津山市体育協会、津山市スポーツ少年団、津山スポーツ振興財団、加茂海洋クラブ等の支援を通じた競技力の向上、また全国大会出場選手の奨励・顕彰を実施	17,675	スポーツ課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
競技力の向上	全国大会出場者数	個人250件 団体 5件	個人300件 団体 7件	個人271件 団体 6件 達成率 42.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
競技力については、年々少しずつながら確実に上昇傾向にある。今後も、現在の状態を維持しつつ、指導者の養成と並行して、体系・組織的に選手の育成に努めていく。								

(3) 芸術文化の振興、文化財の保存と活用	自己評価	B
-----------------------	------	---

【項目の総合評価】

① 市民文化の創造と継承		担当課	文化課
施策の実績概要と評価理由	津山市では市民や市民団体による自主的で多彩な文化活動が活発であり、その文化活動支援事業や発表・鑑賞機会の提供を実施し、多くの市民の参加や交流が促進された。また優れた芸術文化や伝統芸能の鑑賞機会を充実を図った。しかし新たな文化創造の担い手の育成や文化活動全体の底上げを目指し、より多くの子ども達や若者層の参加・交流が必要である。		
今後の課題と方向性	国民文化祭や津山国際総合音楽祭などのこれまでの芸術文化活動の成果を踏まえ、幅広い年代の市民が多く参加・交流できるよう、より一層の芸術文化振興施策の充実を図る。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 文化事業の充実		担当課	文化課
実施結果と成果	市民の自主的な創造活動の支援と発表・鑑賞機会の提供を目的として、西東三鬼賞、津山市写真展、川柳大会、文化教室、文化のまちづくり事業（ミュージカルの公演）、学校での俳句教室、震災復興支援映画「エクレールお菓子放浪記」の上映、各文化センター自主事業などの芸術文化事業を実施した。特に西東三鬼賞については、従来の広報形式に加え、各種団体のネットワークを利用するなど広くPR活動に努めたが、全国的な俳句人口の低下などにより、目標値をすることは出来なかった。 また、津山市民総合音楽祭を開催し期間中3,700人の参加者・来場者があり、音楽文化の振興に努めた。 事業実施にあたっては広く市民にPRを心掛け、多くの市民が文化芸術に触れる機会の充実を図った。		
今後の課題と方向性	これまでの芸術文化事業の充実を図るとともに、新しい事業の展開や参加者・応募者者の増加等に向けた取り組みを工夫していく。		
		自己評価	B

イ 文化活動への支援		担当課	文化課
実施結果と成果	津山市文化連盟や(公財)津山文化振興財団などの文化団体への支援を行い、市民の主体的な芸術文化活動の活性化を図った。特に今年度は(公財)津山文化振興財団事業の中で美作国建国1300年記念芸術文化事業として音楽コンサートや歌舞伎、落語会を開催した。 また「住民参加型ミュージカル みまさか猿神退治」への事業助成を行い、約900人が鑑賞し芸術文化活動による地域の活性化を図った。		
今後の課題と方向性	文化団体との連携を更に強化し、芸術文化活動の充実を図る。		
		自己評価	A

ウ 推進体制の充実		担当課	文化課
実施結果と成果	総合的・効果的な文化施策の推進を図るため、県、（公財）岡山県文化連盟、津山市文化連盟、（公財）津山文化振興財団等と連携強化を図り、津山市の文化行政の推進体制の充実に努めた。ただ、市内で活動する市民・文化団体・NPO・企業等との津山市全体としての文化施策協働推進体制については、市民のニーズや専門家の意見を活かすとともに、津山市文化振興ビジョンを踏まえた課題や問題点の洗い出しが必要である。		
今後の課題と方向性	市内で活動する市民・文化団体・NPO・企業等との連携・協働体制推進に向けた課題や問題点の整理・検討に取り組む。		
		自己評価	B

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
文化のまちづくり事業	勝北地域を中心に地元を舞台にした題材を取り上げたミュージカルの制作と地域文化（民謡民舞）の継承・普及活動を実施	3,700	文化課
美作国建国1300年記念芸術文化事業	美作国建国1300年のプレ事業として、ミュージカルの制作・上映や芸術文化公演事業を実施	8,000	文化課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
芸術文化の振興	西東三鬼賞投句数	4,154句/年	4,500句/年	4,034句 達成率 0.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
津山市輩出の俳人西東三鬼を顕彰する事業として、20年間の長きに渡り全国から俳句を公募し表彰している。俳諧では全国に知られた公募展として成長しており、今年度においても例年並みの投句数を得た。ただ、目標値には達しておらず、今後も津山市の特徴的な文化事業の一つとして継続していくため、SNSを利用したPRや全国の関係団体への更なる周知に努めていく。								
取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
芸術文化の振興	市民音楽祭出演者	1,377人/年	1,500人/年	1,342人/年 達成率 0.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
音楽による文化振興事業として毎年開催している本事業には、今年度も多くも市民が出演し、交流が図られた。平成26年度には、津山国際総合音楽祭の開催も予定されており、市民の自主的・創造的な活動の発表機会の充実のため、SNSを利用したPRや音楽に興味を持ってもらえるような音楽文化の普及に積極的に取り組んでいく。								

[項目の総合評価]

② 文化環境の整備		担当課	文化課
施策の実績概要と評価理由	文化センターなどの公共ホールにおいては、施設の規模や機能に応じた活用や市民が利用しやすい運営、優秀な芸術活動の鑑賞機会の提供など文化芸術の拠点としての充実を図った。津山郷土博物館においては東京スカイツリーへの「江戸一目図屏風」の展示を契機に、広く一般の人々の関心を引き付け、津山市のPRと共に自館の来館者数も増加した。また、津山洋学資料館は開館3年目を迎えたが、年間約1万2千人の来館者があり、津山洋学の県内外への発信を行った。		
今後の課題と方向性	文化施設全体としては来館者数が減少していることから、魅力ある自主企画や講演会の開催、施設整備により文化芸術の拠点としての充実を図る。		
		自己評価	A

[主な取組の実施結果と成果]

ア 文化施設の利用促進と整備		担当課	文化課
実施結果と成果	文化センター等の5つの公共ホールには、指定管理者制度を導入しており、住民サービスの向上や効率的な施設管理が図られるよう指導している。各施設利用者数はベルフォーレ津山が約3500人増加しているものの、他文化ホールは前年並みであった。また、安全で快適な施設利用を図るため、津山文化センター舞台照明改修工事などの改修整備（事業費約24,087千円）を実施した。津山郷土博物館においては、県指定文化財「江戸一目図屏風」の紹介や解説本の刊行などにより「江戸一目図屏風」の素晴らしさや文化財的価値を周知できた。津山洋学資料館においては、講演会の開催、企画展、ワークショップの開催等により来館者数も増加し、市民に対する津山洋学の普及・浸透が順調に推移した。		
今後の課題と方向性	自主文化事業、市内学校施設や諸団体との連携事業の充実や計画的な施設改修整備により、施設利用者数の増を図る。		
		自己評価	A

イ 文化情報の収集と提供・発信		担当課	文化課
実施結果と成果	市民の多彩で活発な文化活動を促進し、優れた芸術作品の鑑賞機会充実のため、市内4ホールの情報を津山市HP等で公開し、ホール事業の発信に努めた。また、ホールの指定管理者連絡会議を開き、情報の共有や連携を図ることにより、行政と文化ホールが一体となった文化芸術施策の充実を目指した。		
今後の課題と方向性	広範な文化情報の提供・発信を行うため、広報紙やチラシ等の紙面の活用やインターネット等の電子メディアの活用を行い、市内外への発信に取り組む。また定期的に指定管理者連絡会議を開催し、連携を強化する。		
		自己評価	B

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
文化施設改修事業	文化ホール等の施設の老朽化に伴い、安全性と利便性を確保するため、津山文化センター舞台照明改修工事などを実施	24,087	文化課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
公共ホールの活用	公共文化ホール利用者数 (累計)	23.7万人/年	26万人/年	22.4万人/年 達成率 0.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
各文化ホールは、経済状況の影響も受け、ほぼ横ばいであった。今後は指定管理者の自主企画事業の充実や施設間の連携による共同事業の開催など、魅力ある事業への取り組みを目指す。								

[項目の総合評価]

③ 文化財の保存と活用		担当課	文化課
施策の実績概要 と 評価理由	地域に残る有形・無形文化財の調査・研究を行い、指定・登録の推進に努めた。また、貴重な文化財を後世に継承するため、文化財の保存に向けた取り組みや史跡の整備事業を継続的に行った。		
今後の課題と 方向性	今後も継続して、文化財を積極的に調査・研究し、保存に努める。文化財の活用については課題が多く、更に調査・研究が必要である。		
		自己評価	B

[主な取組の実施結果と成果]

ア 文化財の保存と活用		担当課	文化課
実施結果と成果	指定文化財の保存として、徳守神社神輿保管庫の改築事業に伴う補助を行った。また、新たに「千年寺開山鉄堂融和尚墳墓及び歴代住持墓所」「大隅神社の木造獅子狛犬」を津山市指定文化財として指定した。県指定文化財としては、「泰安寺本堂及び表門」「神伝流古式泳法」が指定された。 県指定文化財「江戸一目図屏風」の活用事業として、高精細一枚刷のグッズやクリアファイルを販売し、好評であった。 建設工事等に伴う発掘調査として、クリーンセンター建設に伴う黒岩遺跡・城山遺跡の発掘調査を行った。黒岩遺跡については、現地説明会を開催し、30人の参加者があった。継続して調査報告書の作成準備を行っている。また、東消防署建設に伴う中原遺跡の調査、衆楽園の内容調査を行った。		
今後の課題と 方向性	指定文化財の保存と未指定文化財の調査・研究を積極的に行う。		
		自己評価	A

イ 推進体制の充実		担当課	文化課
実施結果と成果	文化財の保存と活用を図るための課題（文化財の修繕・維持管理・活用策など）について整理を行い、実施方針・管理方法などについて、地元関係者等と協議し、文化財の修繕と維持管理について方向性を策定した。		
今後の課題と 方向性	有効な活用策・管理方法などについては課題が多く、さらに協議・研究して取り組む必要がある。		
		自己評価	B

【平成24年度主要事業の状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
津山城跡保存整備事業	「史跡津山城跡保存整備計画」に基づき、本丸周辺等の整備事業を実施	11,869	文化課
美作国分寺跡公有化事業	史跡公園として整備するために土地の公有化を実施	49,756	文化課
指定文化財保存管理事業	市指定文化財「徳守神社神輿」収蔵庫事業等、文化財の保存管理事業を実施	7,192	文化課
「江戸一目図屏風」活用事業	東京スカイツリーの展望台に複製展示される県指定文化財「江戸一目図屏風」を多くの人に知ってもらうため、関連ミュージアムグッズの作製・販売を実施	2,040	文化課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
文化財の指定・登録	指定及び登録文化財全ての件数 (累計)	208件	230件	213件 達成率 22.7%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
文化財の保護の面では、順調に進捗している。今後も文化財の保護に積極的に取り組む。								

[項目の総合評価]

④ 郷土学習の推進		担当課	文化課
施策の実績概要 と 評価理由	県指定文化財「江戸一目図屏風」については、詳細な写真による解説本を刊行し、発売と同時に爆発的に売れた。また、「江戸一目図屏風」の高精細一枚刷りのグッズやクリアファイルを販売。これも、爆発的に売れ、現在も、好評販売中である。こうした、関連資料やグッズの販売による効果は、収入増のみならず、広く一般の人々の関心を引き付けることにあり、多くの人が、新たに「江戸一目図屏風」の素晴らしさや文化財的価値を知ることとなった。こうした人々が、リピーターとして博物館を訪れるようになり、実物を保存することの意味や郷土史学習の意義を感じるようになっていく。		
今後の課題と 方向性	文化財に関しては、堅苦しいイメージが先行することを避けて、身近な楽しみと共に学習ができるように、工夫しながら推進することが必要である。そのためには、様々なアイデアを実現するための予算確保が必須である。		
		自己評価	B

[主な取組の実施結果と成果]

ア 学術研究の成果に基づいた学習機会の提供		担当課	文化課
実施結果と成果	津山の城下町研究の基本資料となる、津山松平藩町奉行日記の翻刻刊行を20年にわたって続けており、その成果は、各方面から高く評価されている。また、成人向け講座として、年間を通じて古文書講座を開催し、初心者からベテランまで幅広く古文書を学んでいる。子ども向け講座では、土器づくり、かるめらづくり、トンボ玉づくり、勾玉づくりなどの体験型講座を開催し、おおくの子どもが楽しく郷土の歴史を学んでいる。こうした講座は、博物館内部のみではなく、学校に出向いての講座も実施しており、多くの学校で総合学習の機会に利用している。また、実物の火縄銃を用いての歴史学習プログラムも実施しており、子どもたちも教員も、火縄銃の実際の重さを体感しながら、鉄砲伝来の意義について学習している。刊行物では、特別展図録での研究論文の発表、日常的には、博物館より「津博」において、常に研究ノートを掲載しており、最新の研究成果をタイムリーに公表している。		
今後の課題と 方向性	学校との連携強化が今後の課題であり、そのためには、教員との連絡を密にするためのシステムが必要と思われる。そして、実際に学習できる教材の作製も急務である。実物に触れることができるのは、ごく一部の資料に限られるため、複製などの教材を工夫する必要がある。研究成果の活用に関しては、研究を進めるための環境整備と研究紀要などの発表の場の確保が課題となる。		
		自己評価	A

イ 郷土を大切に作る心の醸成		担当課	文化課
実施結果と成果	夏休み子供歴史教室、古文書講座等を開催し、多くの市民に地域の歴史・伝統・文化などの体験機会を提供した。また、文化財めぐりを開催し、郷土の文化財への再認識を図った。		
今後の課題と方向性	郷土を大切に作る心の醸成には、様々な事業を継続して行う必要があるため、今後も継続した取り組みが必要である。		
		自己評価	B

ウ 地域の学習資源の活用		担当課	文化課
実施結果と成果	地域の学習資源の活用は、郷土を大切に作る心の醸成にも繋がることから、積極的に津山郷土博物館や津山洋学資料館、津山弥生の里文化財センターが保有する情報や専門的な研究成果を活用した。また、企画展・イベントなどを通じ、郷土の文化財に対する理解を促した。		
今後の課題と方向性	今後も、郷土への理解を深めてもらうため、津山郷土博物館や津山洋学資料館、津山弥生の里文化財センターなどが有する情報を活用していく。		
		自己評価	B

エ 津山市史の編纂		担当課	文化課
実施結果と成果	新津山市史の編纂は、合併後の市民としての一体感を醸成するためには必須の事業であり、十分な学術的裏付けに基づいたわかりやすい叙述が必要である。こうした事業を推進するためには、高度に学術的な経験者を津山市史編さん委員として委嘱し、編さん委員会の指導の下に調査執筆が進められなければならない。そうした、人材の選考と編さん事業推進の体制等を検討し、十分な準備ができた。平成25年度には、津山市史編さん委員会を立ち上げることができる見通しとなった。		
今後の課題と方向性	津山市史編さん室を設置し、編さん委員会を組織、具体的な執筆者等の選考も行い、全体計画を立てたうえで、具体的な事業の推進に着手する。		
		自己評価	A

【平成24年度主要事業の状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
津山市史編さん事業	市町村合併後の津山市史を新たに編さんするため、基本方針等の編さん計画策定への取組	市史編さん室の設置に向けた準備	文化課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
博物館等の利用	津山郷土博物館、津山洋学資料館、津山弥生の里文化財センター、歴史民俗資料館（加茂、勝北、久米）の年間入館者総数	2.6万人/年	2.8万人/年	23,556人/年 達成率 0.0%				
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
歴史民俗資料館（加茂・勝北・久米）の入館者が少ないため、管理方法を含め検討が必要である。								

4. 教育委員会の権限に属する事務のうち市長部局の職員に補助執行させる事務

自己評価	A
------	---

－ 1 個の確立とつなぐ力を育む【幼児教育】－	自己評価	A
-------------------------	------	---

(1) 幼児教育の充実	自己評価	A
-------------	------	---

【項目の総合評価】

① 教育内容の充実と環境の整備		担当課	こども課
施策の実績概要と評価理由	私立・公立保育園（所）・幼稚園の保育者の熱心な取組みにより、「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」が平成25年3月に完成した。津山の乳幼児の実態から、0～5歳児の発達段階に応じた年齢別カリキュラム等を明らかにした。 また、各公立幼稚園において学校評価委員を選出し、内部評価等を示し、学校評価委員会を年間3回実施した。学校評価書を作成し、平成25年度の幼稚園経営計画や教育課程に反映することができた。		
今後の課題と方向性	今後は、「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」の活用をおこない、一人ひとりの幼児の育ちにつながる「活かされた幼稚園としての学校評価」の充実を図っていく。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 幼児教育の質の向上		担当課	こども課
実施結果と成果	津山の乳幼児の実態から、0～5歳児の発達段階に応じた年齢別カリキュラムや発達の特徴と育ちの連続性等を明らかにした「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」が平成25年3月に完成した。 また、「特別支援を必要とする子どもへの支援」、「人とのかかわる力を育むための環境構成と教師の援助」等のテーマで保育園（所）・幼稚園合同研修会を実施し、課題意識をもって研修を深めることができた。 「学校関係者評価委員会」を各公立幼稚園にて年間3回実施し、幼稚園における学校評価を意識した取組となり完全実施することができた。		
今後の課題と方向性	今後は、保育現場で「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を活用し、保育・教育の実践等に活かすとともに評価・検証する。また、各幼稚園における学校評価の充実に努める。		
		自己評価	A

イ 就学前教育と小学校教育の連携		担当課	こども課
実施結果と成果	「保・幼・小連携研修会」を実施し、関係者が一堂に集まり、保育・幼児教育と小学校教育の滑らかな接続において、発達をつなぐ重要性等について情報交換を行い、相互理解を図る機会をもつことができた。 また、近隣の保育園（所）・幼稚園・小学校が連絡会をもち、計画的に子どもや職員間交流の取組みが各地域で進んでいる。		
今後の課題と方向性	子ども達の育ちや学びの連続性をふまえた「就学前教育と小学校教育の連携」ができるように、保育・教育の実践発表をする等の研修会を計画し、さらに職員間の情報交換等が深まる機会を作る。		
		自己評価	A

ウ 子育て支援の充実		担当課	こども課
実施結果と成果	東・鶴山・加茂幼稚園で、平成23年度から預かり保育を実施している。2年目になり、概ね軌道に乗ってきた。利用延べ人数も3園で3,762人/年の実績となっている。幼稚園を利用しにくかったフルタイムで勤務している保護者の方なども、預かり保育実施により、子どもに幼稚園の幼児教育を受けさせやすい環境となっている。また、家庭的な雰囲気の中で異年齢の友達や先生と和やかに安心して過ごすことができ、保護者からも、安心して預けられると好評だった。 未就園交流事業を、467名の登録者を対象に実施した。各園で工夫を凝らし、様々な交流事業を実施することにより、在園児、未就園児、地域住民、保護者等それぞれの交流が図れた。また、未就園児もその保護者も幼稚園の様子が分かる事により将来通園する際のイメージができやすく、入園の際にもスムーズに園生活に溶け込むことができた。		
今後の課題と方向性	預かり保育の制度の周知を図るとともに、担任と預かり保育担当者の連携を強化して保育内容の充実に努め、就学前児童を持つ保護者の選択肢を増やしていく。 未就園児交流事業の実施の回数が多すぎるなど、交流事業の回数や内容によっては、職員に負担がかかるので実施内容や実施方法について検討が必要な園もある。		
		自己評価	A

エ 特別支援教育の充実		担当課	こども課
実施結果と成果	津山市での支援システムを構築するとともに入園前、入園後と早期支援のために、要支援児報告書等により、実態把握をし、要支援児連絡会を実施して、支援方針の調整を行った。 保育実践の中で「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」「チェックシート」を作成し、一人ひとりの育ちにに応じた支援に努めることができている。さらに研修・検討を重ねて見直しを行い、活きた指導計画として使用している。北小学校・西小学校の通級指導教室にこども課の職員を配置し、通級指導・教育相談・所属園訪問の業務を実施し、特別支援教育の充実を図っている。		
今後の課題と方向性	障害の程度を見極め、保護者の理解を得て、就学指導へつないでいくことが課題である。巡回相談を利用や通級指導等、専門機関と保育現場と連携を深め一人一人の支援を必要とする幼児に応じた支援の充実をさらに図っていくことが重要である。		
		自己評価	A

オ 環境の整備		担当課	こども課
実施結果と成果	遊具点検を実施し、安全な使用方法等についても指導している。 建築住宅課に依頼し、非構造部材の点検及び施設の点検を実施し計画的な修繕を行っている。		
今後の課題と方向性	公立の保育所・幼稚園が幼児の発達に合せた環境となるよう、幼保一体化の動向も見据え、老朽化した園舎などの整備が必要である。		
		自己評価	A

【平成24年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
公立幼稚園において学校評価を実施	学校評価委員の傷害保険への加入	33	こども課
就学前教育・保育カリキュラムの作成	就学前教育・保育カリキュラムの作成及び製本	82	こども課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
公立幼稚園における学校評価	公立幼稚園において学校評価を実施	自己評価を実施	学校評価者による評価を実施	全園での学校評価完全実施 達成率 70.0%				

事業の進捗状況及び今後の課題と方向性

平成24年度において、各公立幼稚園において学校評価者を選出し、学校評価委員会を年間3回実施したり、内部評価を実施して、平成25年度の幼稚園の経営計画、教育課程を作成している。
 今後は、園長がリーダーシップを発揮し、活きた学校評価になるよう、研修を深めながら、幼稚園としての学校評価に取り組み、職員の資質の向上と幼児教育の充実につなげる。

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
就学前教育・保育の統一的なカリキュラム作成	幼児の発達を着実に促す教育・保育を行うための就学前教育・保育の統一的なカリキュラムの作成	—	カリキュラムを作成し各園(所)で活用	カリキュラムの完成 達成率 70.0%				

事業の進捗状況及び今後の課題と方向性

「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」については、平成23年10月「カリキュラム作成委員会」を立ち上げ、美作大学等の外部委員をはじめ、保育園(所)・幼稚園関係者のご尽力により平成25年3月に「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」が完成した。
 今後は、就学前教育・保育の現場で「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を活用し、保育園(所)・幼稚園が連携して保育・教育実践から「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」の評価・検証をする。
 また、研修会の企画や情報交換会の開催により、こども保健部と教育委員会との連携や、各地域の保幼小連携取組の推進に寄与し、関係機関との連携充実を図る。

IV 学識経験者（外部評価者）の総評

- 今後の津山市を担っていく子ども達の健やかな成長を願い、地域の特性を活かしながら長い将来を見据えて、新しい時代の教育の基本的方向性を明らかにした「津山市教育振興基本計画」が平成 24 年 2 月に策定されました。津山市の教育が進むべき将来の姿を明らかにし、今後 5 年間に重点的に取り組むべき基本的方向性が示されたことは大変良いことだと思います。また、その計画を「津山市教育行政重点施策」として単年度ごとに細分化して定め、より充実したものとするようご努力されていることは大変評価できると思います。
- 上記の計画に対して実施した「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書」は、項目ごとに簡潔にわかりやすくまとめられています。自己評価で A としているもののの中にやや甘い評価では、と感じるものもありましたが、概ね自己評価は適切に行われているように思います。
- 次年度には「今後の課題と方向性」として記載されている内容を、より具現化して取り組んでほしいです。単年度ごとの積み上げによって、目標・計画が達成されることを期待しています。
- 文中の項目に、〔教育振興基本計画における重点取組の進捗状況〕を載せたことは、進捗状況がよくわかり良いと思います。中身の伴った充実した内容の目標達成となるよう願っています。
- 同じく文中項目に〔主要事業の実施状況〕を設け、決算額が載っています。大切な税金が無駄なく有効適切に執行されますようにお願いします。
- 津山市の学校教育が抱える課題を明らかにして、具体的な施策を取りまとめた「津山市学校力向上推進プラン」が平成 25 年 3 月に策定されました。津山市の学校教育をより良いものとするため、推進プラン実現に向けて、子ども・教職員・学校をまわりが支援し、家庭・地域の教育力を活かしながら、これからも取り組んでほしいです。
- 津山市民一人ひとりが生涯にわたって学習することができ、生涯学習を通じた人づくり、まちづくり、そして誰もが生きがいを感じるような地域社会の実現を目指した取組を積極的に進めてほしいです。
- 関係諸機関並びに家庭・地域の日々の取組と努力による成果が、この報告書からも伺えます。性急に成果をあげようとして、子どもの成長過程で欠かせない大切なものを見失わないように、10 年先、20 年先を見据えて津山市教育振興基本計画の「津山市の教育が目指す人づくり」に沿って、一步一步、確実に取り組んでほしいと願っています。正しい情報発信をして、情報を共有し、津山市民一人ひとりが自分にできることで協力し、子ども達を温かく見守り、励まし声掛けをしていくことがより良い結果に繋がっていくと思います。

I はじめに（津山市教育振興基本計画について）

この点検・評価は、教育委員会の事務、「津山市教育振興基本計画」（平成 24 年 2 月）の実施について定期的な点検と進行管理を評価するものである。

この計画は、時代の現状分析を行い、それに対応できる人材を育てる事を目標にしていることが掲げられており、その項目は「少子・高齢化、核家族化」「環境問題・資源エネルギー問題」「グローバル化の進展」など、今までには無かった新たな課題が掲げられている。

それを解決するためには、今までの既知の知識だけではなく、自らが考えて解決しようとする人材を育成しなければならない。

また、文中の言葉に、「学校・家庭・地域と連携して」とあるように、3 者が連携した教育活動を行う事が求められている。この言葉は、他にも「第 3 次津山市生涯学習推進計画」や「津山市文化振興ビジョン」などにも記載されている、重要な言葉となっている。

II 点検評価

1. 個の確立とつなぐ力を育む【学校教育】 評価 B（ほぼ達成）

- 子どもたちの学力向上のため、学校・家庭・地域それぞれの教育力の向上が求められている。多くの施策が行われていることは評価できる。全体で評価 B となっているが、その内「今後求められる確かな学力の向上」では、評価 C（概ね達成）と評価が下がっている。これは県の学力・学習状況調査全教科で県平均を下回る結果となったためだ。このことは大きな課題だが、注意すべきは学校・家庭・地域の教育力が向上の方向を向いているのか、授業改善等で課題を克服する方向に向いているのか、うろたえず正確に見極めなければならない。
- 「学校の教育力の向上」、「家庭の教育力の向上」、「地域の教育力の活用」は全て評価 B となっている。家庭の事情もあって家庭での学習時間の確保ができていない子どもがいる、また地域の教育力では学校地域支援本部事業が未だ一部の学校で設置できていない地域もあるようだ。しかしそれぞれが着実に進んでいることは一定の評価ができるのではないかな。
- 平成 18 年の教育基本法改正で、「道德教育の充実」が盛り込まれたが、その背景を、「これらに対する大人社会の不十分さがある。このような大人をモデルにし、模倣している子どもたちが、好ましく成長していないという実態があり、看過できなくなっている。」（「教育のキーワード」小島宏著 学事出版）と説明している。点検・評価報告書では「学校間の交流を進める」と書いているが、学校のみならず、家庭も社会も課題を共有しそれぞれの分野で解決の努力をしなければならない。
- 「学校評価の公開」「学校評議委員会」はできているようだ。評価や議論の内容が、家庭や地域に届くように努めていただきたい。
「学校支援地域本部」は地域の協力体制をセットするコーディネーターの人选が重要ということだが、地域の協力をいただき早く全校で組織化され内容も充実し、子ども達が大人たちの学習や社会経験を学ぶ場が広がって欲しい。
- 学校の耐震改修は当初 26 年度完了の計画であった。多くの予算が必要とされる事業であるが、国の予算化が進められたこともあり、喫緊の課題と見据えて 2 年以上の前倒しで対応できていることは良いことだ。

2. 身近な人々のつなぐ力を育む【家庭・地域教育】 評価 A

- 「相談支援体制の整備と社会参加の促進」は、難しい問題であることを表している。社会の問題と考えて、家庭や地域が支える仕組みを広めて欲しい。
- 教育基本法では家庭教育について、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身につけさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。」と規定している。行政においては「家庭教育の支援」として学校と家庭が連携をとるために多くの事業施策が行われ、一定の成果が出ていることは評価できる。今後も継続した長期の取り組みが求められているのだろう。

3. 過去から現在、未来へつなぐ力を育む【生涯学習・スポーツ・文化】 評価 B

- 公民館活動など市民自ら企画運営するような学習形態へ移行を支援することは重要である。その際、社会教育主事などの専門家のアドバイスが受けられる体制になればよりよいものになるのではないかな。
- 生涯学習の活動が地域活動へと広がり、学習が行動へと繋がっていく仕組みづくりの充実をされるようですが、期待をしている。
- 「生涯スポーツの振興」では全体評価がBとなっているが、評価者の個人差を値引いて見る必要があるのかもしれない。体育施設が老朽化しており、維持管理に困難があることがうかがわれる。また、社会体育指導員が高齢化する中で、新規の育成が進んでいないことは問題である。
- 文化施設について、博物館が手狭であること、津山市には美術館がないことはいつも巷で話題になるが、公共施設の機能重複と併せて検討課題ではないだろうか。総合計画の中で方向性が示されるのだろうが、市として将来について市民に饒舌に語ってもらいたい。

III 総括

全体での評価は、A95%以上達成（全体の 63%）、B80%以上達成（35%）、C60%以上達成（1件）、D60%未満（0件）であり、行政としては大方の事業は「達成している（A）」「ほぼ達成している（B）」以上の評価である。

また、担当によって評価の判断に多少の誤差があるだろうし、評価指標によっては数値化しにくいものもあるだろう。

今年度の各事業は概ね予定どおりの進捗であるが、市民の方へは事業が何をしようとしているのかを見ていただくことが重要なのではないだろうか。

評価はあくまで皆さんに見ていただき、いろいろな場面で広く意見をいただくことに繋がればいいのだと思う。

V 今後の教育委員会の対応の方向性（教育委員総評）

V 今後の教育委員会の対応の方向性（教育委員総評）

この点検・評価報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（等）」に基づき、津山市教育委員会の権限に属する事務の、平成24年度における管理及び執行の状況について点検及び評価の結果をとりまとめ、津山市議会に報告するとともに、一般に公表するものです。

報告書は今回で5回目になりますが、昨年と同じく平成25年3月31日をもって評価し、平成24年度から実施している「津山市教育振興基本計画」の定期的な点検とその結果の分析・評価したものを今年度から追加しています。

21世紀は、科学技術をはじめ様々な社会の仕組みの変化のスピードが加速しており、日々新しい知識や技能が要求されています。過去の知識や技能・習慣では対処できないこともあり、創造的な知識能力が求められています。そこでは、新たな考えを出したり、未知の状況での判断が迫られ、創造的な解決能力が求められます。これを実現するためには、必然的に思考力と判断力が求められて、自らの考えを発信する表現力も必要となります。そのためには、多様な価値観を認め、尊重する気持ちをもち、他者と協力して物事を進める力を育み、人とつながることができる力をつけることが大切です。

そのため、学校では、人格の完成を理想とした質の高い教育を目指し、次世代を担う子どもたちが、向上心をもち、志高く努力を重ね、学習者同士、学習者との立場、学習者と地域・社会などを「つなぐ力」を育むために必要な能力・態度を育成していかなければなりません。さらには、学校・家庭・地域がつながり、すべての市民の資質や能力の向上が図られるよう、あらゆる教育や学習の機会を充実させ、まち全体で人を育む教育環境を豊かに広げることが大切です。

津山市の学校教育においては、平成24年度の全国学力・学習状況調査の結果によると、小・中学校とも全国・県平均を下回り、家庭における学習状況と生活習慣についても多くの課題が浮上してきました。また、特別な支援を必要とする子どもや複雑な問題を抱える児童・生徒が急増し、広範囲の多くの要素が複雑に絡み合っていることもあり、個々の特性や状況に応じた支援体制の一層の充実など、こうした課題に対して多面的、総合的に取り組みながら、学習を展開していくことが求められています。

これらの課題解決のため平成25年度からの具体的な対策の定着と実現にむけて、

1. 「津山市学校力向上推進プラン」の推進を図る

このプランは、津山市の学校教育が抱える課題を明らかにするとともに、「津山市教育振興基本計画」で示された教育を実現するための実施計画であり、これまでの取組を基盤として、平成28年度までの本市の学校教育の充実及び学校力の向上のために必要と考えられる具体的な施策を取りまとめたものです。

◇めざす学校像

子どもたちが生き生きと学び、楽しく遊び友達を作り、自分であることに誇りを持ち、夢と希望を育むことができる「わかる授業、楽しい学校」

◇学校力向上の3つの重点

現在の本市の学校課題を改善し、学校力を向上させるための重点化した施策を進めるために、「学力向上対策の推進」、「生徒指導・不登校支援の推進」、「特別支援教育の推進」の3つの

柱を定めました。

(1) 学力向上対策の推進

- ①標準学力調査による学力実態把握(標準学力検査の実施による早期からの計画的・系統的な指導)
- ②わかる授業(「3つの提案6つの取組」に根ざした授業改革や地域人材の活用)
- ③研究指定・校内研究支援(学校の教育課題や研究テーマに応じた研究指定と校内研究支援)
- ④家庭学習と生活リズム(実態把握に基づく家庭学習の習慣化や中学校ブロックでの家庭学習の習慣化の取組)
- ⑤外国語活動の充実(ALTの派遣や小中連携による外国語活動)
- ⑥35人学級編成の推進

(2) 生徒指導・不登校支援の推進

- ①人間関係づくり(不登校やいじめの未然防止や中学校ブロックでの一貫した生徒指導)
- ②生徒指導・教育指導(生徒指導体制の整備、スクールカウンセラー等の配置と活用)
- ③不登校への対応(中一ギャップ等の課題改善や関係機関と連携した登校支援)

(3) 特別支援教育の推進

- ①早期からの教育相談(早期からの就学相談会の開催や保護者への情報提供)
- ②指導力の向上(各種研修会や実践ガイドブックの作成)
- ③個別の教育支援計画(教育支援計画の活用による適切で継続・系統的な支援)
- ④特別支援教育センター
- ⑤自立支援(津山市発達障害等支援関係連携協議会の定期開催による関係機関とのネットワークの構築)

の取組を一層推進し、「生きる力」を支える、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた子ども達の育成を図るとともに、子ども達が、夢と希望を育むことができる「楽しい学校、わかる授業」の実現を目指します。

また、生涯学習、文化、市民スポーツの分野では、それぞれのライフステージとニーズに合った学習ができ、その成果をまちづくりに活かすことが求められています。「放課後子ども教室」・「学校支援地域本部事業」の充実や、「つやまっ子読書プラン」、「津山市スポーツ振興計画」、を推進させ、学校・家庭・地域がつながり、すべての市民の資質や能力の向上が図られるよう、学習の機会を充実させ、まち全体で人を育む「つなぐ力」を培うように取り組んでいきます。

今後、「津山市教育振興基本計画」の枠組みを軸に、各分野の実施計画を着実に推進・検証し、その成果と課題について検討していきます。また、小・中学校、社会教育施設の訪問等や各種研修会に参加し、現場の課題や問題点を受けとめ、支援する体制の構築に努めていきます。

津山市教育委員会は、平成25年度も、津山市教育振興基本計画を単年度ごとに具体的に進めるため「教育行政重点施策」を定め、教育スローガンを『ふるさとを愛し 心豊かに たくましく 未来へ 「つなぐ力」を育む』とし、8領域、25項目に区分し実行しているところです。「点検・評価の結果」及び「学識経験者の総評」を踏まえ、津山市の教育の充実・発展のために、高い使命感と責任感をもって計画を実行・推進していきます。

VI 資 料

(1) 平成24年度津山市教育行政重点施策の体系

① 平成24年度津山市教育行政重点施策の体系

津山市第4次総合計画（平成18年度～27年度）

『人づくりと文化の振興』

◇未来を支える人づくり
幼児教育の充実
義務教育の充実
学校保健と学校給食の充実
青少年の健全育成

◇自己の能力を高められる
体制づくり
生涯学習環境の整備
スポーツ・武道の振興

◇文化遺産の保存・継承
歴史遺産・文化財の
保存、活用

津山市教育振興基本計画（平成24年度～28年度）

基 本 理 念

「つなぐ力」を育む

～あなたとわたし、学校・家庭・地域、そして世代を超えて～

津山市の教育が目指す人づくり

- (1) 国際社会を生き抜くため、確かな学力を身につけ、生涯にわたって向上心に燃え、自分自身の道を切り拓く人
- (2) 心身ともに健康で、自己を認め、互いの人権を尊重する、豊かな人間性を備えた人
- (3) 愛情あふれる家庭を築き、人や地域とのつながりを大事にし、自己の力を地域に活かし、いきいきと活動することができる人
- (4) 津山の自然・歴史・文化・社会をかけがえのないものと感じ、郷土に誇りをもって次代に伝えることができる人

教 育 基 本 目 標

- (1) 個の確立とつなぐ力を育む 【幼児・学校教育】
 - ① 確かな学力と豊かな心、健やかな体を育み、郷土の自然、歴史、文化、産業等、津山の特色を活かした幼児・学校教育に努めます。
 - ② 子どもたち一人ひとりの個性を伸ばし、教育的ニーズに応じた、安全で質の高い教育環境の充実に努めます。
 - ③ 自己を認め、互いの人権を尊重し、生命を尊び、自然を愛し、環境を大切にすることを育てるように努めます。
 - ④ 高い倫理観と確かな指導力、豊かな人間性をもった教職員の育成に努めます。
 - ⑤ グローバルな視野に立ち、広く社会に貢献できる人材の育成に努めます。
- (2) 身近な人々のつなぐ力を育む 【家庭・地域教育】
 - ① 家庭において、基本的な生活習慣を身につけ規範意識が醸成されるよう、家庭教育を支援し、学習機会の充実に努めます。
 - ② 家庭や地域が継続的に連携・協働して学校を支援し、子どもたちの成長を支える活動ができるように努めます。
 - ③ 地域の間で連携を深め、青少年の自立と社会性を育成する活動の推進に努めます。
 - ④ 高等教育機関や民間企業と協働し、子どもたちや市民が新しい知識や技術を学ぶ機会の提供に努めます。
- (3) 過去から現在、未来へつなぐ力を育む 【生涯学習・スポーツ・文化】
 - ① すべての市民が、生涯にわたり資質や能力の向上を目指して、自主的に学習できる機会と場の提供に努めます。
 - ② 郷土が育んできた文化や伝統を保存・継承し、歴史や先人の偉業を学習することで、ふるさとに誇りと愛着をもてるように努めます。
 - ③ 生涯スポーツを振興し、健康で潤いのある生活ができるように努めます。
 - ④ まちに文化が薫るよう、伝統文化を尊重しながら新しい文化の創造に努めます。

平成24年度教育重点施策

教育スローガン

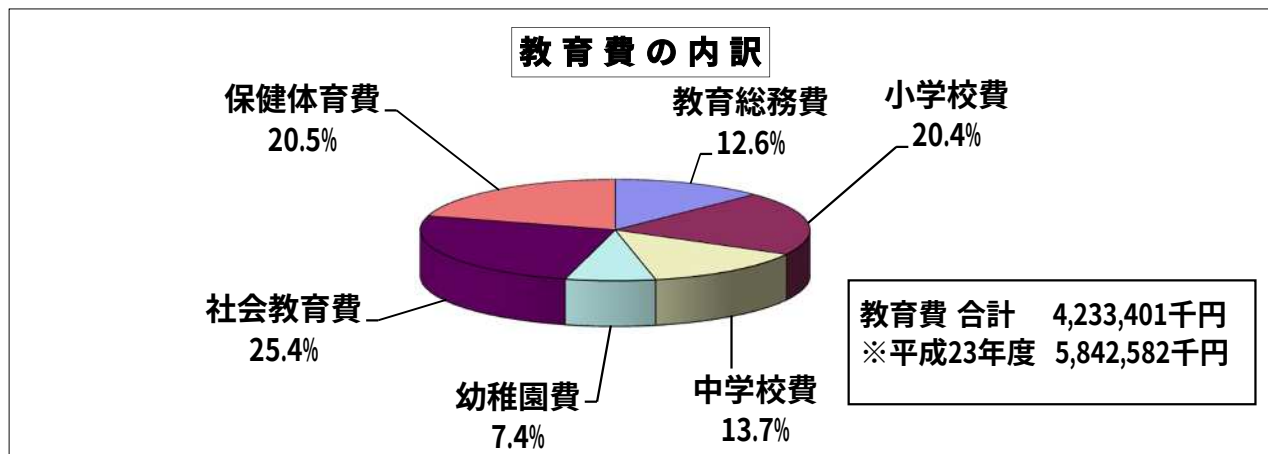
ふるさとを愛し 心豊かに たくましく 未来へ 「つなぐ力」を育む

(2) 平成24年度教育予算の内訳 (当初)

(単位:千円)

No	事業名 (中事業名)	予算額	No	事業名 (中事業名)	予算額
1	教育委員会運営費	4,575	36	中学校給食管理費	1,000
2	事務局職員給与関係費	282,629	37	中学校施設管理費	50,479
3	事務局運営費	13,768	38	中学校教育教材費	11,000
4	事務局施設管理運営費	2,674	39	中学校遠距離通学補助費	3,263
5	就学指導及び学事事務費	4,984	40	中学校準用保護生徒対策費	43,074
6	教職員指導研修事業	330	41	久米中学校改築事業	6,335
7	生徒指導、進路指導充実事業	7,757	42	北陵中学校改築事業	310
8	アトラクティブ・スクール事業	2,000	43	中学校大規模改造事業	316,765
9	教科充実事業	53,243	中学校費 合計		579,334
10	特別支援教育推進事業	2,758	44	幼稚園管理職員給与関係費	217,899
11	指定校研究推進費	770	45	幼稚園一般管理費	84,840
12	岡山チャレンジ・ワーク14事業	448	46	幼稚園就園奨励費	12,359
13	学校人権教育事業	892	47	幼稚園教育振興費	380
14	道徳教育実践研究事業	100	幼稚園費 合計		315,478
15	学校課外活動費	8,890	48	社会教育総務職員給与関係費	156,181
16	英語活動講師派遣事業	13,881	49	社会教育総務一般事務費	2,254
17	スクールヘルパー(学校支援員)事業	42,236	50	生涯学習推進事業	4,546
18	学級安心サポート事業	14,283	51	視聴覚ライブラリー管理運営事業	423
19	学校教育研究センター関係費	904	52	久米山ふれあいロッジ管理運営費	3,013
20	複式学級解消事業	6,316	53	陶芸の里管理運営費	8,457
21	学力向上対策事業	1,300	54	生涯学習施設管理運営費	8,316
22	理科支援員等配置事業	452	55	芸術文化振興事業	16,379
23	ふるさと学習推進事業	4,100	56	文化振興財団助成事業	34,900
24	私学振興費	13,429	57	文化振興事業基金運用事業	30
25	修学助成費	52,199	58	ベルフォーレ津山等管理運営事業	52,256
教育総務費 合計		534,918	59	成人式関係費	1,844
26	小学校管理職員給与関係費	167,597	60	少年団体等育成事業	1,205
27	小学校一般管理費	280,457	61	鶴山塾管理運営費	13,353
28	小学校給食管理費	58,707	62	青少年育成センター運営費	13,518
29	小学校施設管理費	137,138	63	健全育成事業	5,084
30	小学校教育教材費	22,192	64	放課後子どもプラン推進事業	5,940
31	小学校遠距離通学補助費	7,383	65	学校支援地域本部事業	2,696
32	小学校準用保護児童対策費	54,361	66	文化財一般事務費	490
33	北小学校改築事業	13,840	67	文化財保護普及事業費	516
34	小学校大規模改造事業	120,000	68	指定物件等保存管理事業	58,797
小学校費 合計		861,675	69	津山城跡整備事業	9,884
35	中学校一般管理費	147,108	70	緊急発掘調査事業	470

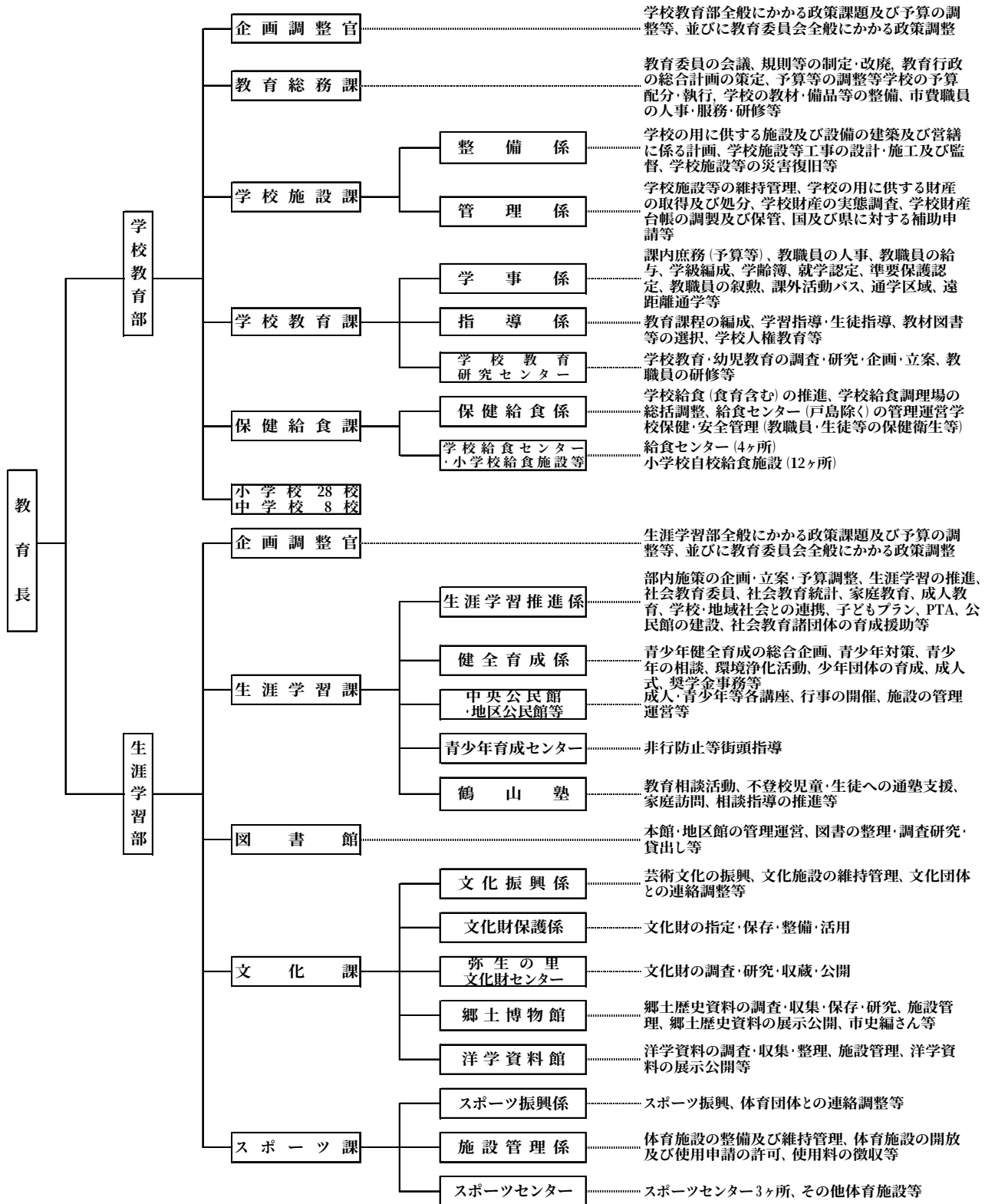
No	事業名 (中事業名)	予算額	No	事業名 (中事業名)	予算額
71	市内遺跡発掘調査事業	2,180	98	学校保健事業	62,848
72	クリーンセンター関連調査費	14,100	99	給食センター職員給与関係費	15,583
73	歴史民俗資料館管理運営事業	341	100	給食センター管理運営費	292,807
74	知新館管理運営費	1,410	101	戸島学校食育センター改修事業	9,800
75	箕作旧宅管理運営費	1,256	102	保健体育職員給与関係費	174,045
76	城東むかし町家管理運営費	1,857	103	保健体育一般事務費	2,449
77	文化財センター職員給与関係費	44,528	104	体育振興費	33,335
78	文化財センター一般管理費	14,259	105	施設管理事務費	5,118
79	公民館職員給与関係費	26,449	106	スポーツセンター管理運営費	8,527
80	公民館一般事務費	79,445	107	鶴山球技場管理運営費	6
81	中央公民館管理運営費	9,351	108	弓道場管理運営費	300
82	地区公民館管理運営費	30,678	109	東部運動公園グラウンド管理運営費	101
83	公民館分館管理運営費	10,885	110	西部運動公園管理運営費	3,180
84	中央公民館生涯学習推進事業	1,065	111	西部体育館管理運営費	2,155
85	地区公民館生涯学習推進事業	6,002	112	東部体育館管理運営費	31,814
86	公民館整備事業	82,838	113	福岡体育館管理運営費	281
87	図書館職員給与関係費	71,377	114	津山東武道場管理運営費	930
88	図書館管理運営事業	112,965	115	加茂町スポーツセンター管理運営費	20,299
89	津山文化センター管理運営費	15,215	116	阿波体育施設管理運営費	1,684
90	津山文化センター管理運営費	27,532	117	勝北総合スポーツ公園管理運営費	26,644
91	加茂町文化センター管理運営費	13,879	118	久米総合文化運動公園管理運営費	32,314
92	勝北文化センター管理運営費	15,120	119	グラスハウス管理運営費	78,000
93	郷土博物館職員給与関係費	23,700	120	津山総合体育館管理運営費	22,004
94	郷土博物館管理運営事業	21,641	121	津山東体育館管理運営費	7,253
95	洋学資料館職員給与関係費	22,725	122	陸上競技場管理運営費	32,010
96	洋学資料館管理運営事業	22,456	保健体育費 合計		868,190
社会教育費 合計		1,073,806	教育費 合計		4,233,401
97	学校給食事業	4,703			



(3) 平成24年度教育委員会の組織機構と事務分掌

(平成24年4月1日現在)

<教育委員会事務局>



<補助執行を行う市長部局の部署>

